【テーマ区分】
(ア)結婚・出産・子育ての希望をかなえる
(イ)くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
(ウ)地域への新しいひとの流れをつくる
(エ)安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

資料5

番号	事業名称	事業主体	内　　容	効　　果	課　　題	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
1	「Superチュードレン in加古川スクール」の開校	運営主体は加古川市と兵庫県(高砂市・稲美町・播磨町も含める可能性あり)	教育熱の高い加古川市に3歳時～小学校低学年を対象に、未来の日本を背負う人材の養成を目的とした子供塾を行政が先導して設立して欲しい。開催日と開催場所は、週末に利用されていない小学校や公共の空き施設を活用し、定期的に開催。スタッフや教材費・施設使用料として1回500円程度の授業料を徴収。講師は、加古川市在住又は出身の様々な特技・技能を持った人材を幅広く募集し、テーマ毎に開催する。テーマとしては、①加古川から未来のノーベル賞学者を輩出とか、②加古川から未来の錦織圭などの様々なテーマ・ジャンルを用意し、勉強・スポーツ・芸術を問わず、市民が知らないだけで市内に多数おられるすぐれた技能や経験・知識を広く子供たちに伝え、将来のリーダーを育成する。また、アシスタントには、現役の高校生や兵庫県立大学の学生にボランティアのお願いすることにより、幼児・若者・子育て世代・熟年層の幅広いコミュニケーションの場としたい。更に、子育てが終わった親とこれから本格的な子育てを始めようとする親との成功話・苦労話の場をお茶を飲みながらざっくばらんに本音で語り合う「親に聴かせたい子育てのポイント」的な場も併設したい。	①児童の学力・体力作りに関し地域住民のバックアップにより更なるレベルアップを図ることにより、すぐれた人材を輩出するという加古川市のブランドイメージ作りに役立つ。 ②第一線を退かれた優秀な市民の掘り起こしとその有スキルと知識の伝承が期待出来る。 ③新たな職域の確保と世代を超えたコミュニケーションの場の提供。 ④このPJが軌道に乗り良い噂が広まれば、若い夫婦等の転入も期待出来る。 ⑤公共施設の空きを解消し、効率的な施設運営が期待出来る。	①テーマ設定⇒学力アップだけを主眼としたスクールでも良いが、民間の幼児教育機関も多数あり、行政が行う上では、開校の明確な目的と差別化を図る必要がある。 ②将来への効果は期待出来るが、金銭面での収益はあまり望めない。 ③開校場所は極力市の中心街か学校が良いと思うが、他の行事等との兼ね合いで、一年間毎週決まった曜日に開校出来るかは不透明。	○			
2	ネウボラ加古川	加古川市(NPO委託等)	フィンランドで発祥した連続した子ども・子育て支援の拠点施設や政策のネウボラを出会い・結婚・妊娠・出産・子育てまでではなく、子どもの義務教育まで連続性を持った施設と子ども個々への一元的な支援体制を確立し、子育て支援を行う。	安心した子育て環境が加古川にあることで、若者世帯の定住化が促進できる。	使用する施設の問題と複数の部局の一元化をどのように行うか。	○			
3	プロボノ加古川	加古川市(学校園支援ボランティア等の活用)	ボランティア活動で無償や有償と言われる中間体として、プロボノという経験や仕事を活用したものが全国的に行われてきており、学校園での放課後や土曜日等の空き時間を利用して地元の職業人や教師を退職した方が、事業や教室を行う。	子どもの教育体制の確立により他の市町村より優位に立つことで、子育て世帯の定住促進や地元歴史を学ぶことでの子ども時代の思い出や愛知苦心が生まれ、就職等で一時的に地元を離れるが、子育て時に戻ってくる一助となる。	プロボノで活躍する人材発掘に時間がかかる可能性はある。	○			
4	孫とおでかけ支援	加古川市	孫と同居又は、両方ともが加古川市内在住者に孫と一緒に利用できる無料券や割引券等を配布し、孫とのおでかけ支援をする。	孫育ての一助となることで、両親の負担軽減と介護予防や孫世代との交流の楽しさをより知ることで孫世代へのボランティア意欲を高揚する。	孫の確認等が難しいかも。	○			
5	三世帯同居支援	加古川市	市外から転入で三世帯が同居するリフォームや新築等に補助金を出すや市民税等を二年間無料にするなどの支援を行う。	三世帯同居による介護関係や子育て関係の行政負担の軽減と悌自由人口の増加。	その後の転出等をどう防止するか。	○			
6	マンション特区	加古川市	加古川駅周辺等へのマンション等の建設促進と大規模マンション建設時に子育てや介護施設等の設置義務を課すことで、単身世帯でなく、子育て世帯への定住の選択枠を広げるためのバックアップを行う。	子育て世帯等の定住促進。	どれだけの世帯が入居するかが見込めない中でのマンション業者へのアプローチとなることが問題である。	○			
7	チャイルドパートナー事業	行政とボランティアグループ・子育てサークルなど	地域少子化対策強化交付金を受けて取り組んだ名張市の「ネウボラ」をモデルにしたい。名張市は市内14か所の公民館などの「まちの保健室」で子育て相談を受けている。「まちの保健室」は、子育て相談だけでなく、高齢者の相談窓口にもなっており、社会福祉士や保健師が配属されている。加古川市でも公民館に保健師を配属していた歴史はあったが、直営型地域包括支援センター設置の際に廃止になったように記憶している。これを戻すことは困難であると思うが、公民館に保健師を配属することで、子育て世代だけでなく、あらゆる年齢の相談に応えられることや、相談拠点があることで、公民館で活動する各種ボランティアや子育てサークルと連携することも可能である。 他の方法としては、地域包括支援センター(地域包括)の保健師にその役割を付加することが考えられる。地域包括に寄せられる相談は、高齢者だけでなく障害のある人や子育て中の家庭もあり、個別に対応するのでなく包括的な相談に応えることが求められている。地域包括の保健師にその役割を付加することが困難なら、市の保健師を地域包括担当にするなど、工夫の余地はある。	重点検討項目の(1)(2)に該当し、安心して出産・子育てができることや地域の連携ができる。虐待事案が多いのは、母親の孤立化が考えられる。特に乳幼児期が大切で、産前産後のケアや相談などが身近な場所にあることで安心してこの時期を乗り越えられる。また同年齢の親子が集うサークルやボランティアグループの交流で地域の力を付けることができる。	全ての公民館に保健師を配属するとなると相当数必要になり、財源を考えると厳しい面もあるが、現在の保健師をもっと有効に活用できると考える。また、年齢構成人口を考慮し、地域包括に相談機能を持たせる地域(市の保健師が担当することも含めて)があってもよいと思うが、 相談体制が地域によって格差が出ないように配慮することが必要である。	○			

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
8	大学生主催自習ルームの開設	市内在住の大学生	大学生が主体となり、市内の施設で、小学生・中学生を対象とした自習ルームを定期的に開設。希望者は自由に勉強ができ、わからないところは質問出来る環境を作る。	塾等に通学できない低所得者世帯の子どもは学習機会が少ない傾向にある。勉強意欲のあるすべての人が平等に学習できる環境があることで、加古川市内の学生の基礎学力が上がる。 子育て世代に、加古川市の魅力の一つとなる。	大学生のボランティアを集める必要がある。	○			
9	子どもを連れて行けるレジャー施設の事業案	行政など	みとろフルーツパークに温室があるが、植物だけでなく花鳥園のようにインコやオオハシなど、熱帯性の鳥なども飼育し、餌付けなどすれば子どもが喜ぶのではないか。	○市内の子どもたちにレジャーの提供 ○市内外から子ども連れ客の増加 ○子育て世代の市内居住のアピール	○動物を取り扱える ○専門知識のあるスタッフの配置等	○			
10	日本で一番！子育て支援する加古川市！	加古川市（行政）	国の児童手当以外に加古川市独自の子育て支援を行う。 例：1人目1万円、2人目2万円（月額）。・出産お祝い支援 ・保育園、幼稚園、小学校、中学校までお金が掛からない。など。	加古川市に人口が増える。 若い世代が増える。 全国から注目される。	・思い切った行動をとる以外、人口を増やすのは無理！ ・財源確保が課題。	○			
11	中学生と社会の交流	中学校	年に1，2回、クラブ活動を地域の人と行う。授業を公開する。 事前に申し込みや募集案内をして、どのくらいの人数が参加希望か把握して、調整する。	地域と中学生の交流により、安心、安全な町づくりが期待できる。自分の町が好きになる。	学校側の協力が必要。地域からボランティアで協力者を出す。 学校の負担を最小限にする。 中学校のすぐそばに住んでいます。どの子も自分からは挨拶しませんが、回数を重ねる度に、声をかけてくれる子が増えていきます。もっと、みんなが交流を深めていってほしいです。	○			
12	鶴林寺こども体験学習	加古川市・鶴林寺・市民ボランティアなど	・小学生が夏休み期間に親元から離れ、国宝鶴林寺で集団生活を行う。 【期間】 夏休み期間の3日間（2泊3日）程度 【対象】 小学生3年～6年生（市内・市外を問わない） 【その他】 掃除、写経、掃除、坐禅など規律を守って体験する。 在寺中はテレビ・ゲームを見ない、必要以外は携帯を触らないなど 規律を守る。	・国宝寺院で小学生が自立心を養う良い機会のため、親世代に興味を抱かせ、鶴林寺の PRにつなげる。 ・市内の小学生には鶴林寺の素晴らしさを伝え地域に誇りを持ってもらう。	・鶴林寺行事との調整	○			

【テーマ区分】
(ア)結婚・出産・子育ての希望をかなえる
(イ)くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
(ウ)地域への新しいひとの流れをつくる
(エ)安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
13	かこがわ夏休みこどもマップ	行政	かこがわ夏休みこどもマップ ①加古川地蔵盆マップ 転入者や新興住宅地等の増加や地域の高齢化に伴い、かつて家の近所で行われていた地蔵盆という地域に根差した土着のイベントが希薄になりつつある。居住している近所の地蔵盆だけではなく、市内一円(エリアに分けて)地蔵盆の箇所をマップ化することにより、地域の文化を継承することができる(子供達にはおかしがもらえる等)。 地域による独自色が強いと考えられるため、掲載の方法等配慮する必要がある。 ②ハイキングや昆虫採集できる市有地を紹介 昔みたいに野山に入ってハイキングや昆虫採取できる環境が少なくなった。利用されていない山(市有地)を夏休み期間だけ開放する。キャンプ場と連動してイベントを行うとより効果的。市有地を無料利用させることに課題がある。 ③期間限定で公共施設の夜間利用を行う 普段、利用できない時間帯に公共施設(図書館やプール等)を開館する。平常時とは異なり、期間限定で照明を落とすなど夜間利用を促す趣向を凝らす。競技場の芝生の上でキャンプ体験やナイトスイミングなど期間限定で非日常の利用を行う。新たな利用者の獲得を図る。大人の利用者を対象とする。			○			
14	赤ちゃんのまち加古川		出産・子育てをしやすい町づくり(絵本作家のトークイベント、抱っこ美人コンテスト、ハイハイレース、子育てなどの補助金) ベビー用品・メーカーの誘致	ショッピングモールなどで赤ちゃんのイベントを開催する事で赤ちゃんを身近に感じることで出産率をあげることができると考えられる。 また、赤ちゃんを育てやすい町として、ベビー用品メーカーのショップを駅前に誘致(寺家町ベビーロードとしてシャッターを使って写真展をする)し、外部からの買い物客や近場でベビー用品がかえるようにする。		○			
15	「日本一子育てをしやすいまちづくり」 ドリームプラン・プレゼンテーション	事業の主体:加古川市(事務局) 事業運営:市民、各種団体、企業、学生など(実行委員会) 事業参画者:加古川市を、子育て都市として発展させたいという思いの共有者(プレゼンター・支援者) アドバイザー:シャインドリーム株式会社 ◆行政を主体とし、主体的に地域の担い手として貢献をしたい人財、企業を幅広く募集をし、共働コミュニティをつくります。	【概要】「日本一子育てをしやすい街づくり」を実現するための、夢(新規事業)のプレゼンテーション大会を開催※参考サイト「ドリプラ・マニュアル」 http://www.drepla.com/topics/upload_docs/%E3%83%89%E3%83%AA%E3%83%97%E3%83%A9%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB_ver.1.1.pdf 【事業内容】 ①起業家の育成 夢を叶えるための姿勢を学び、プレゼンテーションづくりをする過程を通じ実践をしていくことで、自らの可能性を最大限に発揮する姿勢を育み事業を成功させることができる人財の育成をします。 (例)ママ起業家、子育て支援事業者、学校関係者など ②ネットワークづくり 様々な子育て支援事業を行っている人たち(起業家、事業家、PTA、育児サークルなど)が、競争相手ではなく共創相手となりお互いの夢を応援し合う関係性を築きます。 ③アイデアの創造 独自性にあふれ社会を変える、子育て支援の夢を持つ人たちが具体的に夢が叶った世界感を表現するプレゼンテーションをつくります。	①子育て環境を向上させる、環境づくりに主体的にかかわることができる場をつくることで、行政のみに頼る地域の体質から、行政、民間企業・団体、市民が共につくる体制を育むことができると考えます。 ②本事業を通してメンター(自らの可能性を最大限に発揮させ、成長していこうとする人財を育てることができる人)が増えていくことで、子育てに関わる人財の質の向上につながり子供たちの可能性と未来の拡大が期待できると考えています。	①本プロジェクトに参画する人財の募集と掘り起し。プロジェクトの周知と、参加への動機付け。 ②子育て環境向上のために様々な価値観や目的で活動する、既存の基盤あるネットワークを巻き込むために、理解を促していき、参画できる新たな仕組みをつくることも必要であると考えます。	○			
16	主婦が働きやすい加古川		ハローワークに子育て主婦向けの求人を特集してもらう。午前中だけ、午後だけ、深夜だけ、細切れ出勤など働きやすい求人を噂になるぐらい供給する	働ける事によって、子供をつくろうという雰囲気を高められる。		○			

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　　容	効　　果	課　　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
17	加古川市日本一計画		日岡山に日本一の巨大迷路をつくる。 巨大迷路には3種類ある。 フォレストゾーン：今ある木を活かして、木にネットを張って道をつくる。 ウォーターゾーン：夏季開業の浅さ10mm程度のこどもと大人で入るジャブジャブ迷路。 昆虫迷路：クリアすると必ず昆虫がもらえる迷路などなど また、JRや加古川線とも連携し、PRする	子育て世代の良い遊び場ができる。 他の地域の観光客が加古川に流入する。 雇用が生まれる可能性がある。 これらの日岡山に日本一の巨大迷路があることにより幼児期から地元で遊び、愛着がわき、大人になっても加古川って良い街だなというイメージがわく。 日岡山にある、プールや体育館、サッカー場などがより、日本一の巨大迷路と一緒にPRする事により、今まで以上に光ってくると思います。		○			
18	地域の名人・匠発掘活用事業	行政・市民	加古川市をはじめ兵庫県には、あらゆる分野で活躍している専門家の人たちや、特技を持った人たちがいらっしゃいます。分野にこだわることなく、兵庫県だけでなく全国の人たちに呼びかけて「我こそは〇〇名人！」という人たちを探し出し、加古川市のサポーターとして登録しておき、学校や各種イベントなど、ありとあらゆる場面で活躍してもらうという制度です。登録期間は1年間として、更新制としたほうが制度として鮮度を保てるのではないでしょうか。貢献度に応じて、表彰する制度もおもしろいと思います。さまざまな組織・機関と連携し、教育や祭り、講演会などのイベントで必要とする人材を市が紹介できるシステムを提案します。	特技を持った人たちの活躍の場の提供。室の高い人材の確保。登録してもらうために特技を持とうと努力する人が出てくる。小さな子供たちに、将来登録されたいなという夢を持たせることができる。人と人との繋がりができていく。現行のイベントの活性化。	名人として登録された人の称号として魅力的な呼び方があればよい。報酬をどうするか。名人と認める基準と審査方法、信頼性の確保。ハードルが高すぎても人が集まらない（提出書類を簡素化したり、面接等で代替したりする）。募集方法の検討（インターネットは高齢者に不向き）。人伝いにこの制度が広がるとよい。		○		
19	異世代間交流活性化事業（()が〇事業）	行政・教育委員会	現在加古川市は大きな人口の変動がない状況です。しかし、世帯数は年々増え続けており、核家族化が進んでいます。この問題点は（1）父母の子育て負担増加（2）共働きに支障（3）待機児童の増加（4）出生率の低下（5）子供の成長に影響・孤食（6）農地の減少とそれに伴う洪水発生・自然環境の減少・地産地消の衰退（7）高齢者の孤独化・孤独死の増加（8）将来的に多世代家族向けの住宅を立てにくい環境になり半永久的な定住につながらない（9）（8）によって地域住民同士が疎遠になり治安悪化・イメージダウン（10）将来的に空家の増加につながり、その維持管理が難しくなる（11）子供の遊び場の減少⇒これらの問題を解決するために、多世帯・拡大家族を奨励する施策を実施する。また、核家族向けの住宅が増え続けたり、優良地にある農地がどんどん失われたりしている現状を緩和する施策を実施していただきたい。 その他、孤独化する高齢者が参加して、地域全体で安心して子育てを行っていける施設建設やイベントを頻繁に行う。教育者は学校の先生だけではなく、学校と連携しながら地域の方を講師とした授業が展開できる仕組みを強化する。互いが独立している()が〇になる取り組み、「かっこが輪（和）」につながる加古川市独自の取り組みをお願いします。「家庭―学校―地域住民―企業―行政」「子供―父母―祖父母（高齢者）」が輪で繋がればいいなと思います。	異世代交流が進むことで、上述した問題がプラスに転じることが期待される。	土地に関する法律との兼ね合いがあり難しい面もある。地域の人材の確保、教育現場の協力・理解が得られるがどうか。継続性のある取り組みとなるかどうか。		○		
20	行政の運営による市民のニーズマッチングサイトの立ち上げ	運営主体は行政	ベンチャー企業がネットの世界で個人間の様々なニーズをマッチングするサイトがあるが、それを是非、行政主導でもやって欲しい。具体的には、人気のある「Any＋Times（エニタイムズ）」と言うサイトを例にとると、自分の空き時間を活用し、自分の得意なことを生業として働きたいと思っている人が会員として登録して依頼主を探す。一方で、誰かにお願いしたいことがあるものの、誰にその仕事を頼めば良いのかがわからず困っている人が、同様にそのサイトに個人登録した上で、必要な仕事をやってくれる人を登録者の中から探し出し、条件が合致した人に仕事の依頼をすると言った仕組みである。そのサイトのHPを見ると、「困った」を気軽に頼もう、「できる」ご近所サポーターズがサッと解決！をキャッチフレーズに、PCの使い方、家具の組み立て、犬の散歩、草刈り、車での送迎、介護ケア等どんなことでも、その悩みを解決してくれる人がいますとある。一方であなたの時間と特技を活かして、空いた時間をスマートに活用し、社員でも派遣でもアルバイトでもない、新しい概念のワークスタイルでお手伝いをしませんかとも唱っているのである。これを我が加古川市に当てはめて考えてみると、誰にも頼めず、誰かに頼んでやってもらいたいことが数えきれない程潜在的にあって、そのニーズを解決すべく、行政が主体で、このようなシステムを立ち上げ、昼間に共働き夫婦の子供を預かる、幼稚園に迎えに行く、外に出られないお年寄りの代わりに買い物に行く或いは家の草むしりなどなかなか自分では出来ないような作業をやると言った仕組み作りをやると言うことがもし実現すれば、少子高齢化で一人住まいのお年寄りが多く、車にも乗れず神姫バスの路線が廃止になってしまった村落等の住人が救われるなど市民の助かり度合いは計り知れない。もちろん、加古川市にも、小規模なNPO法人や介護サービス事業者もあるし、シルバー人材センターなるものも確かに存在するが、現実は全ての依頼事に決して対応出来てはいない。唯一、業態としてそれらしきものを上げれば、所謂「何でも屋」であるが、ハッキリ言って値段設定が不明確なうえ、うさんくさい業者が多いのも事実で、決して安心して頼めるようなものではない。このような誰かに何かをして欲しい多くの潜在的なニーズがある一方で、自分に合った仕事が見つけられずフリーターの若者もどんどん増えているし、60歳で定年になり畑仕事だけでは力を持て余している中高年の方々もどんどん増えている。つまりこれらのやって欲しいと言うニーズとそのニーズに気付くことなく、時間や技能を持て余している市民の皆さんを、是非行政の手によって、エニタイムズのようなシステムの立ち上げをやっていただき、そのマッチングによって問題を解決するシステム作りを是非お願いしたいと思います。	①市民の潜在的な悩みや問題を行政の手によって解決することが出来る。 ②新たな雇用の場を行政の手によって設けることにもなる。 ③問題解決までの時間の短縮化。 ④システムの設備投資が安価なことや、労働対価の何パーセントかを仲介手数料として市が受け取ることによる新たな収入源の確保。	①ネット上のやり取りだけで、見知らぬ人に依頼して大丈夫なのかと言う不安。⇒登録会員は加古川市民に限定し、登録者への事前面接等はサイトを運営する行政側で担保されれば非常に安心である。 ②働き手側の労働対価（賃金）の自由な設定には疑問⇒これは、寧ろ、依頼主側が事前にサイトでその労働対価を了解したうえで初めて委託契約が成り立つので大丈夫。もし、ネット上での賃金を超える不当要求があった場合は、運営会社である行政に依頼主が申し出を行い、その当該者に注意や会員登録抹消等行うなどの予防システムの整備があれば大丈夫。 ③シルバー人材センターとのバッティング⇒これは、このシステムにシルバーセンターの会員を登録することで解決が図れる。 ④ネット環境の無い家庭或いはネットが使えない高齢者に方に如何にして手軽に利用出来る環境を作るかがこのテーマの最大の課題である。		○		
21	シンデレラバス加古川	加古川市（民間委託）	加古川市は、東西交通は、充実しているが、南北の公共交通が人口の割に不便であり、定住するには、移動手段として自動車がいると一般的に言われており、JR加古川駅から大阪駅まで一時間かからない通勤圏であるが、夜遅くなると加古川駅からタクシー等を利用しないといけないイメージがあり、若者世帯の定住には、夜12時に加古川駅発で各地域を回る深夜バスを走らすことで、 残業や飲み会等の時でも公共交通で帰れる安心感ができる。	上記に記載	新たな予算とタクシー関係者との調整が必要である。		○		

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内容	効果	課題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
22	地域包括ケアシステム事業	行政、医療法人、介護事業所など	西市民病院跡地の有効活用の提案です。地域包括ケアシステムの構築に向けて努力されていますが、跡地が地域包括ケアシステムのモデルとなる、行政・医療・介護連携拠点にします。西地域の住民にとって、シンボルだった病院が移転することに大きな不安、不満を持っています。西地域の新たなシンボルとなり得る、都市計画的なデザインが必要だと思います。広大な敷地を民間任せでなく、一定の方向性を示して、統一感のあるエリアになればと考えます。 具体的には、回復期病棟、地域包括ケア病棟、医療的ケアが必要な人の短期入所病棟などを備えた後方支援病院、定点化される夜間休日急病センターには在宅支援診療所を誘致します。1階部分と2階以上は別の医療法人で考えましたが、急病センターを平日昼間にも有効活用できるなら、同じ法人でも構わないと思います。他には、サービス付き高齢者住宅、その1階部分は歯科や眼科、通所介護事業所や訪問介護事業所、訪問看護事業所、居宅介護事業所、地域包括西の出張所などを誘致します。また、公民館を移転新築する場合は、子育て広場的な要素が必要だと考えます。高齢者だけでなく、こどもや若い人が気軽に利用できる施設になれば活気づくでしょう。	多死時代に突入する前に、在宅医療・介護体制をさらに充実させる必要があります。特に北西部は高齢化率が高い地域であり、西市民病院跡地が医療・福祉エリアになれば安心できます。また、西地域は子育て広場がありません。公民館にあれば高齢者との交流が生まれ、どちらにもいい影響があると思います。	市の方向性をどこまで示せるのか、都市デザインをどこまでするか、独法と医師会、民間事業者とどう協議していくのかが課題です。		○		
23	公園に健康遊具の設置	加古川市	市内の公園に健康遊具を設置する	高齢者の健康増進になる。高齢者が元気になれば、医療費や介護保険料が抑えられる。 また、常に人がいる公園になることで、子どもも安心して遊べる公園となる。	利用が見込まれる公園に設置をしないと飾りになってしまう。 現在、ウォーキングの利用が多い、浜の宮公園・鶴林寺・寺田池などが良いのでは？		○		
24	地域ネットワーク構築プロジェクト	地域住民（町内会、老人会、婦人会等）、行政、福祉事業者（地域包括支援センター、介護保険事業者）、社会福祉協議会	超高齢社会を迎え、地域包括ケアの推進が掲げられていますが、住民主体の助け合い活動にまだ結びついていないように思われます。そこで、専門職が、各町内会へ出向き、近未来の社会（10年後、20年後）をどのように安心して暮らしていくことができるかを議論します。（座談会）その中で、行政サービスはどのようなもの（十分なサービスは提供できなくなること）になるか、医療、介護サービスはどうなるかを予測し、住民一人一人が安心して暮らすために何をしないといけないのかを考える機会を作ることが大切と考えます。その中で住民主体の助け合い活動が生まれてくるのではないかと考えています。 近未来では財政的な制約から、今まで通りの医療や介護サービスが受けられないことが予想されます。また看取りの問題は孤独死を覚悟しないといけない状態が普通に起こってきます。 住民があいさつや声掛けを行い、少しの困りごとは助けてと言える関係（信頼関係）を築くことが大切です。町内会では、組織としてつながる仕組みを作ることが重要となります。（ひとネットワーク）ご近所の付き合いができ、孤立を防ぐことができれば、色々なサービスが少なくなっても安心して暮らすことができると思います。 地方創生のアイデアというと仕事を持ってくる、人に来てもらえるように魅力を作るという風に考えますが、超高齢社会では、その地域であれば安心して暮らしていけるという地域を作ることが最も大きな地方創生ではないかと考えています。（人とつながって生活できることは楽しい生活ができることになりますので人も集まることができると考えています。） では具体的にどのようなプロジェクトかというと ＜事前準備＞ 1.地域ネットワーク構築の理念の構築 2.このプロジェクトの構成員、役割分担 ＜事業活動＞ 1.地域ネットワーク構築モデル地区の設定 2.各種団体（町内会、老人会、民生委員、婦人会等）との根回し 3.住民座談会（近未来で起こる生活課題について） 4.住民の意見の集約と、課題解消のための取り組みのまとめ（専門職と住民の協働） 5.具体的な住民主体の活動を行う仕組み作り（事業計画） 6.実施、その後の住民満足度調査 7.継続性、感動・感激をどのように演出するか（活動の進化） 8.他地域へ展開	人口減少、超高齢社会という大きな社会的課題に対しては、全ての組織が、知恵を出し合い協力し合って行わないと課題解決には至らないことです。特に国民的議論が盛り上がり、自分の事として真剣に話し合える環境を作ることで、住民の人と人のネットワークもできてくるのではないかと思います。 住民のネットワークができると孤立を防止でき、安心して暮らすことができます。そのように地域には、UターンやIターンで人が集まってくるのではないかと思っています。そのためにも住民のネットワークが楽しい活動になるように企画演出をしていく必要があります。	行政、社会福祉協議会、介護保険事業者、民生委員、住民（各種団体）が同じ方向に向き「安心して住み続けることができる地域」を目指す必要があります。 従ってこのプロジェクトを推進するリーダーがしっかりした理念を持ち、強力なリーダーシップを発揮する必要があります。 住民の中には、非協力的な方もいると思いますが、まずは、理念に賛同してもらえる人を中心に活動をスタートすることが大切であると考えています。		○		
25	加古川中心部の交通ライフラインの強化事業案	山陽電車、行政など	市の交通のライフライン強化として山陽電車尾上の松駅を整備して市の南の玄関口として、JR加古川駅とバスで直通させてはどうか。 （駅の南口の創設、駅前市場跡地の整備など）	○山陽沿線住民の市内への通勤買い物客などの増加 ○JR山陽電車の相乗効果による活性化 ○JRの事故時などの代替輸送など、ライフラインの強化	市場跡地の整備開発などの予算		○		
26	カインドカードによる透明性の高い医療で全国から患者を呼ぶ事業案	行政、病院等	カインドカードを域外の人にも発行し、透明性の高い医療をアピールして、医療先進地として全国から患者を呼んだらどうか。	○医療先進地としての地域のイメージアップ ○医療施設の稼働率アップによる病院建設費の回収	○現在カインドカードが有効に利用されている病院がない		○		

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
27	既成市街地活性化事業及び危険家屋対策事業	加古川市、民間開発事業者、自治会、個人	（背景） 既成市街地、中心市街地で利用されていない家屋がいろんな地域で見うけられる。建て替えをするのにも建築基準法上の道路がなく43条但書きを適応しないと建てられない敷地が、中心市街地又は、既成市街地で存在する。また、それらの地域で家屋、工場、倉庫がまったく利用されていなく建物自身が危険家屋に該当するか、まったく利用されずに手つかずの家屋が存在する。そういう家屋は、中には所有者も生存をしないで相続されずに放置されているかもしれない。となると、土地及び家屋に対する市税（資産税）が滞納状態であるかも知れない。まず、第一に、危険家屋対策として、建築指導課と資産税課でタイアップして、危険家屋の除却事業を実施してはどうか。所有者を確認し、相続が発生しておれば、その相続代表者等の承諾を得て、危険家屋だけを撤去して、更地にする。それだけで、中心市街地及び既成市街地に空地ができ、環境改善が図られる。また、例えば、土木総務課が実施している駐輪場対策として、駅周辺であれば、借り上げを検討する、更地にしておけば、風が通り、子供等の遊び場に市が借り上げするのも可能である。ただ、所有権の問題もあるので、その辺は、検討を要する。更地にすれば、フェンス等を設置しないといけない場合も出てくるかもしれない。ただ、更地にしておけば、民間の開発業者も土地利用に進むかもしれない。既成市街地で、税も取れないような未利用地があるなら、まずは、危険家屋対策、民間活力利用プラン、または、環境改善プランと古びた家屋を残しておくより市全体としては効果があるのではと考える。ただ、補助プランもがあればそれを活用し、なければ、単費で実施すべきではないか。単費でも実施すれば、市税（資産税）が確保される可能性があるので効果があると考える。費用対効果は、検証する必要があるが面白い施策と考える。 現在、建築指導課で空き家・空き地対策の相談窓口を開設しているがそれでは不十分であると考えている。その相談内容の記録も踏まえ、空き家、空き店舗を有効活用し、人が集まる加古川市にするために、住宅、店舗を増やし未利用地の解消を図りやすくすれば、人口の減少に歯止めになり、もともと神戸、大阪の通勤圏というポテンシャルがあるのだから、衛星都市としての住みやすい環境を作ることになるので効果があると考える。	上記のとおり。	実施する部署の問題。加古川市の施策として実施するのだが、どこの部署で実施するのかわからない。民間企業が開発をしやすく誘導するのも活性化となるので、効果があると考える。「地方創生」特別チームを結成し、そこで強力に実施しないとなにもできない。人を呼び込むための民間活力を利用した基盤整備事業で長いスパンで実施しないと効果は上がらないと考える。地区計画、区画整理と同様に基盤整備の一つの手段と考えて欲しい。		○		
28	エネルギーの賢い使い方(スマートコミュニティ)による安全・安心なまちづくり	行政と民間事業者による連携(PFIの活用など)	東日本大震災以降、高度なエネルギー技術やITを活用して、エネルギー面からの快適・安全・低炭素なまちづくりに向けた各種取組みが精力的に進められています。 このような中、加古川市におかれても、例えば西・東市民病院といった公共施設の跡地活用に関して、再生可能エネルギー等を活用したスマートコミュニティを導入しエネルギー供給信頼度を向上させることでまちづくりと医療・福祉・防災の連携が進み、結果として地域活性化が実現されることを提案いたします。 【スマートコミュニティの機能と期待される効果】 ・電気・ガス・水道の全インフラが途絶したとしても、太陽光や小水力の再生可能エネルギーと蓄電池を組み合わせ災害停電時の非常用電源とするほか、災害時の生活用水の確保にも寄与する蓄熱設備を導入することで、地域の防災拠点・避難場所としての役割を果たす。 ・下水熱や地下水熱、地中熱、太陽光、河川水など地域にある資源から熱や電気のエネルギーを取り出し活用することで地域エネルギー自給率を高め、CO2を削減する。 ・再生可能エネルギーの余剰電力は固定価格買取制度により売電することで同施設の運営コストを軽減できる。	跡地活用の要件である防災機能、福祉機能、医療機能をインフラ面から強固にサポートすることにより、同コミュニティの価値が向上し結果として賑わいの創出が期待できる。	・再生可能エネルギーのポテンシャル ・同事業の採算性 ・一括受電のスキームの可否		○		
29	マンション・アパート相互防災コミュニティ		各マンションやアパートのオーナーを巻き込み、滞在している老人世帯と、若い夫婦との相互扶助ネットワークの形成を担う。お互いの家庭が二日間開かなければ、同じ階の住人からインターホンに連絡が入る等。また、共働きの家庭にて子供一人の場合に不安な事が起これば他の部屋へ連絡が取れる等。	小規模のコミュニケーションの復旧から住人同士の希薄な関係からの脱却を目指した街、ふれあいの街加古川に発展していく。相互の関心を増やすことにより防犯・事後防止に役立てる。更に、近隣住人と接することにより加害者側の人間が育つのを減らす。			○		
30	狭い道を広くしよう		幹線道路の整備は進んでいるが街区の中の道は、未だに狭く曲がりくねっているので、広くまっすぐな道にする。	道が狭く曲がりくねっているため、神戸や阪神間に比べると車が通りにくく歩道も整備されてないため、安全に暮らすことができない。そのため、土地の価格は安いが、住む人がいない。また、市外からも転入してこない。その結果、空家がふえ、人口減少へとつながっていく。区画整理を行い、道を広くまっすぐな道にすることにより、街の印象は良くなり安全性も向上し、市外からの転入率も上がると考える。			○		
31	国際都市加古川		外国人労働者の積極的な受け入れ	国策で外国人の実習技能制度が3年から5年に近く変更される予定。 若い世代の求人が得られない事業書などでは大きな力となる。			○		

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
32	地域コミュニティを活用した空き家バンクの設置	不動産事業社と町内会・市民との連携事業	昨今問題になってきた「空き家問題」を解決するための事業。 空き家問題がある町内の有識者(長年住んでいる人や町内会の方)をキーに空き家情報の収集を行う。 そして町内会ごとに空き家の情報を管理・管轄する拠点を設け管理する。 他地域での空き家バンクの多くは成功しておらず、失敗の一番の要因は、「広く浅く」の管理になっているからである。 また本事業は、商店街などでも応用できる。	空き家の解消 危険家屋の防止 商店街の活性化 人口減少の解決	人財問題 組合以外で狭域的に不動産管理を行える事業社の発掘 有効的な不動産情報の発信の場所の構築		○	○	
33	コミュニティ・キッチン	市民	市内の空き家、空き地を整備して、ホームパーティ、バーベキュー・パーティ、茶会等、食材、飲み物を持込み、人が手軽に集まれ楽しめる場所を提供する。	空き家、空き地の有効利用が図れ、市内に新しいコミュニティが出来る。 市内産の農産物の普及効果も見込める。	空き家、空き地の所有者の協力。 利用者のマナー		○	○	
34	美術館の開館	運営主体は加古川市と商工会議所、他に金融機関、企業・個人の協力	姫路や明石のように是非美術館を造って欲しい。今は、個人の画廊喫茶や市民ギャラリーや等で小規模で分散して展覧会が開催されているが、もっと大規模で多くの来客が見込まれるような常設の美術館を希望します。器は古民家や使わなくなった公共施設を地元出身の建築家に依頼し、イノベーションで建物を作る。展示物は過去に市へ寄贈された作品や地元企業や個人が保有する作品を借り受け、加えて、加古川出身の新進画家や彫刻家に作品発表の場を積極的に提供する。入館料は、施設運営が出来る単価に設定し、資金調達のために、地元企業に協賛を呼び掛けると共に、設立に共感する人々に対してクラウドファンディングを設けて寄付を呼び掛ける。	①新たな加古川の名所となり、市外からも多くの見学者が期待できる。 ②市内外からの昼間帯人口の増大とそれに伴う消費効果の拡大。 ③新たな作品発表の場を設けることにより、加古川在住の芸術家の再認識と新人の発掘。 ④市内に眠っているお宝作品の発掘。 ⑤行政に寄贈された作品の市民へのお披露目と芸術都市としてのイメージアップ。	①誘致には土地の確保や建物の建設等お金と時間が掛かる。 ②警備上の問題。		○	○	
35	加古川花と緑と水の回廊 構想　ウェルネス＆パークシティへ	兵庫県、加古川市、観光協会、公園緑化協会　ウェルネス協会　その他	県南部の中心に位置、鉄道、道路アクセスの良好さを生かして市内外や県外からでもの来加を促進。資源資質は十分あるが現在はそれぞれ単独でも生かし切れていない現状を打破して集客増に。 平荘湖と権現湖とみとろフルーツパークを一つの観光エリアととらえ再再開発県立または市立公園、テーマパークとしての拡充。3つを一つとして捉え、車、ウォ－キング、最近著しく増えた自転車に対応。 ①権現湖には市花の観光世界のツツジ園の開設、ｽﾏｰﾄｲﾝﾀｰも、加古川には誇れるテーマ園ありません、伊丹や福山のバラ園有名ですよね。 ②平荘湖を俯瞰してみてください、こんな立派な湖が都市近郊にあることをもっと生かしてもらいたい。周回路の一部にわずかサクラ、アジサイがありますが他は手つかず道路脇に花や緑の回廊にみたていろんな樹木や花植物相を展示、里山ゾーンもあり自然観察の場にも。出島もあります、景観形つくっています。樹木の手入れすればより綺麗な景観にも。ウォーカー、サイクリスト、ジョガーのみならず老若男女市民全体にもっと喜ばれ愛されるゾーンに変貌。 背後の山は都市近郊恰好のハイキング、トレッキングの入門コースですが 現状あまり来ていません、最高点の飯盛山からの景観は高御位からと同様東播磨加古川全域のみならず北播、淡路、播磨灘見渡せる素晴らしいものです。ヤマつつじをもっと群生させれば岩山と相乗の景色に。 ③加古川の海岸線は高度成長時の埋め立て全く無くなりました。そのかわり 平荘湖、権現湖という素晴らしいものを与えてくれました。しかしそこは親水域ではありません、そこでカヌー、カヤックの入門、安全研修施設はどうでしょう。加古川大堰上流にはボート施設でにぎわっています。これでボートカヤック、カヌーと水スポーツのメッカになります。もちろん県の許可がいりますが。 ④みとろフルーツパークについて、よい施設とロケーションですが上記と関連付けてPRローカルみとろでなく大きく加古川フルーツパークと改称 あまり利用されていないウォーキングセンターをサイクル＆ウォーキングセンターとし平日でも集客ある民間の洒落たカフェレストランに改変。 上記のアクセス道路左には自転車用の茶色のライン色付も。名称も必要 ⑤サイクリング、トレッキングハイキン・ハイキング、ウォーキングで汗かいたら近隣にはあって加古川市にはない温泉施設も欲しいです。 老朽化した少年自然の家、またはOAA日岡ハイツのどちらかでも温泉施設に、絶好の立地と景観で繁盛まちがいなし。 蛇足ですが少年自然の家は他例えば多可郡あたりにでも移転のほうが子供たちも遠足気分で喜びます。少しは山深い権現周辺も考えられます。 3か所連動で加古川市は公園都市として脚光あびる市になります、交通立地、エリア面積、景観、その資質に気付いて欲しいものです。	市民の利用がうんと増え県内外からの訪問も増えます。ふるさと納税にも好影響あるでしょう。県道加古川北条線沿いに道の駅開設できるかもしれません。公園の維持管理でも公民館単位でボランティア募り、市民の参画でより愛されるでしょう。〇〇町ゾーンとかで分けるのも一計。 地産地消特産品の販売と食事。平荘湖には自営のお洒落カフェも。 ウェルネスパーク行のバスの利用も増え、増便も。 住みたい街加古川市になり移住・永住促進にも、人口増、税収につながります。	いろんな規制緩和でしょうか。		○	○	

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
36	ニッケのレンガ造りの工場を美術館に改装して保存する事業案	行政など	イギリスにテートモダンという古い火力発電所を美術館に改装した建物がある。加古川を象徴するニッケのレンガ造りの工場も国際設計コンペなどを開催して美術館として保存し、市の文化発信観光の核としてはどうか。	○市を象徴する建物の保存・鶴林寺以外の市外へ誇れる文化施設の増加 ○市の文化発信国内外からの観光客の増加 ○市民の文化に接する機会の増加	○予算・費用 ○展示作品（巡回展特別展だけでもよいのではないか） ○建物がまだ使われているのかどうかなど		○	○	
37	市民の市民による地域情報発信ウェブメディアの構築	ウェブ事業と市民団体による連携	地域の情報や魅力を市民と共に発信できる狭域ウェブメディア媒体の構築。 市民ライターを募集し、加古川の魅力をライターの「主観」で書いていただく。そして加古川の魅力を調べていくことにより、「まちの人財」の発掘・創出につなげる。 <掲載内容案> ・地域の隠れた魅力やまだ見ぬ地域の宝となる原石の発掘創出事業 ・若者が働けるまち加古川としての企業雇用PR ・空き家バンクと連動した空き家紹介記事 など 今まで多く行われてきたウェブ事業（ホームページやウェブショップ）は、広域的な事業展開を主に行ってきた為、「広く浅く」の展開しかできなかった。 本事業で行う展開は、「ウェブでありながら狭域」そして「ウェブとリアルの連携」が肝となる。 本事業は単独で行う事業でなく、様々な事業と複合的に行うことにより効果的な事業展開が行える。	本事業の一番の目標効果は「市民意識の醸成とそれに伴う人財の発掘・育成」	運営母体の構築資金また運営資金 他ウェブメディアとの連携など			○	
38	首都圏大学・学部誘致	行政・大学・企業	・駅前ヤマトヤシキのフロア数階を加古川市が借り上げ大学学部へ無償貸し。 ・改装等にかかる費用は行政と大学で負担。 ・大学は首都圏の大学学部に限る。 ・大学卒業後、加古川市内居住での就職者に対し住民税等の減免を行うなど、他市からの若年層移住者に優遇措置を図る（既在住者に対しても同様の優遇） ・加古川市内企業でのインターンシップ制度を拡充し、企業側には毎年数名の就職定員を確保してもらい、加古川市内就職率を上げる。	首都圏に集中する若年層を地方に分散させ、地方の活性化の起爆剤とし、若者が日中に多く市内滞在することによることで、駅前周辺の空き店舗解消。 卒業後、都市部への移住を防ぎ、加古川市人口減少への歯止めとする。	初期費用の問題。学部誘致に対しての大学側の理解。			○	
39			すこし的外れかもしれませんが、せっかくの機会ですので提案させていただきます。 加古川市は神戸・姫路のベッドタウンとして栄えましたが、昨今の都市回帰現象により人々の都市への流出により苦境にたたされているのではと考えております。私も加古川市民として街の活性化を期待しております。 他都市より加古川市に住みたいと思わせる街づくりが大事なのではないでしょうか。 加古川の住宅街としての最大の魅力は加古川駅に新快速が停まることと思います。しかし、寺家町・駅北には住民はあまりおらず、街としても衰退しているように感じます。再開発により高層マンションがたつことは私は非常に歓迎いたします。それは駅周辺の人口が増えるからです。人口が増えれば、店もでき、人を呼び、街が活性化するのではないでしょうか。寺家町・駅北には高層マンションを誘致し、人口が増大すれば自然と店ができ、街が活性化していくと思います。旧竹田家具跡地に平屋の飲食店ができたことは非常に残念に思います。寺家町の空洞部分など駅徒歩圏には高層マンションを誘致し、まず人口の増大をはかることが重要かと思います。 来年には新病院がニッケ近くにでき、導線が駅から寺家町近辺にできあがります。これは街の活性化に役立つと思います。 一方、寺家町周辺の古民家には味わい深い雰囲気の建物も散見され、若い力によるリノベーションを期待します。 駅前にシンボル的な建物もほしいところです。難しいかもしれませんが、たとえば多木洋館やニッケのレンガ倉庫を移設するなどはいかがでしょうか。 また、徒歩圏外の加古川市民からも駅周辺にきてもらうには駐車場・駐輪場の整備、道路整備も重要と考えます。 道路整備は非常に重要と考えます。車加古川は車社会であるにも関わらず、片道2車線の道路は少なく、渋滞が多いように感じます。また街路樹が非常に少なく殺風景になっております。他都市より移住してもらうには地方都市ならではの広々とした空間・緑の多さを魅力にしていきたいところです。 街路樹・公園整備も非常に重要と思います。緑豊かな街でなければ地方都市に住む魅力が半減します。 財源確保には加古川バイパス有料化はいかがでしょうか。加古川バイパスは無料であるがゆえに、他都市より単に通過するトラックや通勤者が渋滞を招いていると考えます。市民への理解は難しいかもしれませんが、私個人は有料にして、加古川バイパスを含めた市内の道路整備を願います。私個人は有料でも結構なのですが、市民への理解のために市民は無料になるようなシステムをETCカードを利用して発行する等はできませんでしょうか。 観光はニッケ社宅群がポテンシャルを持っていると考えます。昭和村のようなテーマパークもよいかもしれません。	他都市からの移住者の増加				○	

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
40	生徒・学生による活気あふれる商店街	加古川市内にある高等学校及び大学が主体になって、行政と商店街がこれを支援する。 高校は、加古川東高、加古川西高、加古川北高、加古川南高、東播工業、県立農業高校、 大学は、兵庫大学といなみ野大学、合計8校が対象です。	加古川市内の利便性の良い場所にある古民家・古い商店街を借り切って、各高等学校と大学がアイデアを出して、店を開店し運営していくというもの。 若い人向けの便利グッズ、年配向けの商品、加古川ならではの取扱品、自分たちの自慢できる物、それらを各校が軒を並べて顧客サービス、収益性、スタッフ管理等を競うことができる。 学校が主体となって商店街を盛り上げることで、全国的にも珍しい事業として注目され参加者の励みになる。学校関係者や商店主は、生徒たちが自主的に参加しやすいよう指導していく。 主体は学校ですが、行政はこれが円滑に運営するように各関係先の協力を求めてゆきます。	学生たちがみずから事業を立ち上げて運営していくことで、教科書だけの学問だけでなく実際の企業活動や物品売買の知識や知恵が身につきます。店に来る顧客との応対により幅広い社交性が身につく。全国との交流が図れ、外国からの観光客との会話や習慣を知ることができる。 学生たちが独創的な商店街を展開することで、既存商店街の新たな活気に繋がります。	高校が大学への予備校的存在である現状では、新しく学習指導要領以外の企画・運営という面で実現が難しいものと思われます。クラブ活動の顧問のように外部から専任の実施責任者を募集して、生徒や学生は交代で自分たちの店舗の活動に参加するという形にしてはどうか。 飲食関係については保健所の届け出が必要で、学園祭のような弾力的な運営が望まれます。			○	
41	ええやろ、加古川（加古川の魅力創造プロジェクト）	加古川市が主体となって進めることが大切ですが、各企業・商店、教育機関、市民、各種団体等が積極的に参画してもらえるような仕掛けと幅広い協力が必要です。押しつけではありません。 大切なのは変化を嫌う現状維持から脱皮して、広い視野でふるさとを創造できるかです。	熟議2013in兵庫大学は「加古川の未来について話をしよう！～世代を超えた熟議～」のテーマでした。そこで、どんな「ふるさと」にしたいか、ということに関して、参加者の価値観が多様でした。また、加古川の「強み」より「弱み」が圧倒的に多く危機感が強く出ていました。 どこにでもある街だけど、何も変わりそうもない街だという感想を持ちました。 加古川に住んでいる人たちが誇りを持って暮らせる、加古川なら安心できる、加古川で育った人たちが加古川で仕事ができる、全国や海外から観光客が来て楽しんでくれる、という魅力をまず1つ創っていく。今までにない加古川の魅力を引き出し、それを広く発信することです。	加古川だけの大きな魅力を1つ創ることで、これまでよく言われている「自然が豊か」「歴史がある」「謡曲の史跡」「地場産業が盛ん」「スポーツイベントがある」「棋士のまち」「浜の宮中学の吹奏楽」という特徴が融合し、加古川らしい街づくりが大きく伸びてゆきます。 国内の来訪者、海外からの観光客が増えることで、新しい加古川の良さを再認識できます。	熟議2013でよく話が出たのですが、加古川の人たちは全般に「危機意識がない」そうです。 これまでやってきたんやからこれからも何とかやっていける、まずこれから変えましょう。 加古川の中だけを見るのではなく、世界や日本各地のあり方や求めていることを考えましょう。 行政・市民・各種団体の方々の固定観念を取り除いて、前向きな提案を受け入れることです。			○	
42	加古川駅前商業施設	都市計画課	加古川駅前は病院やマンションの建設は行われていますが、商業施設に活性が見られない。駅前とニッケパークタウンに大型ショッピングモールの建設と 寺家町商店街もテナントを募集する。	人があつまり駅前に昔のように活気がでる。 今のままでは他府県から人が来ません。				○	
43	別府川の整備	加古川市　住民	昨年、別府川河口の海洋文化センターから、上流に向かって写真を撮りながらウォーキングをした。一級河川であり護岸は整備されていたが、別府川を目的にした住人に出会うことはありませんでした。しかし「カワセミ」に出会うなど、自然が残っていると感じられました。 ①この別府川を、住民が多く訪れる場所として整備することを提案します。 ②整備には一級河川としての制約もあると思いますが、官民一体で進めることが重要と思います。 ③各関係町内会や企業に整備分担をお願いして、整備事業を委譲するなど、コンペ的な展開を採用する。 ④休憩所、販売所など設備面の充実を図る。 ⑤観光客の誘導策も立ち上げる。「小舟」の観光コースを作り、将来は「ため池めぐり」なども視野に入れる（水位調整域の整備）。	①沿線には、小中高校があり、自然学習の場所として活用する。 ②加古川市の中心部を縦断しており、近くに日岡公園や鶴林寺があり観光コースも設定できる。 ③整備事業自体を楽しむ「住民のお祭り」とすることで、一体感を作る。	①一級河川としての制約。 ②少なくとも10年と、長期間の事業になる。			○	
44	「オール千円の日」と「オール五百円」の日の創設	運営主体は商工会議所と各地域の商店連合会	プレミアム商品券だけではカバー出来ない市民の購買意欲に応えるため、毎月10日を「オール千円の日」に、25日を「オール五百円の日」と定め、賛同する市内の商店や企業全てで、千円と五百円の目玉商品を考案・販売し、行政もPR協力でバックアップをする。	①経済効果が大きいこと。 ②地域商店街の活性化 ③市外からの人の流入	①いかに多くの協賛店を集めることが出来るか。 ②駐車場の確保 ③広範囲になるのでマップ等の作成が困難。 ④市外への人に向けたPRをどうするか。			○	

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
45	動物病院の集合施設(ビル・広場・ストリート)の設置	運営主体は加古川市と民間の獣医師会や大学	少子化と大都会への若者の転出により人口が年々微減している加古川市だが、逆に私の目に増えていると映るものが二つある。一つは老人の数で、もう一つが犬と猫、所謂、ペットの数である。そこで、全国的にもあまり例がない、動物病院を兵庫県下もしくは近畿一円から積極的に誘致し、ペットホテル・ペットショップ・動物カフェ等を兼ね備え、多くの動物病院が入居する複合施設を是非設置願いたい。	①ペット愛好家たちを一か所に呼び込むことが出来、新たな加古川のホットスポットになること間違いなし。 ②市へは税収が、市民には新たな雇用の場が、更に市外からも訪問してくる人も増える。 ③これまでの政策は加古川にある観光名所や特産品から人を呼ぼうと視野角の狭い発想が多かったが、これが成功すれば、加古川には無いものを誘致して街創りをしようと言う考え方もどんどん生まれてくるのでは。 ④土地の有効活用と路線価格の上昇。	①誘致には土地の確保や建物の建設等お金と時間が掛かる。 ②市内にある既存の動物病院からの反対。			○	
46	人寄せの出来る常設イベントの拡大やプロモーションビデオの制作	運営主体は加古川市と商工会議所	踊っこまつりやツーデーマーチ等の新しく大規模なイベントは成功していると思いますが、それも年に一回限りに過ぎず、月1回定期的に行われるようなイベントを数多く企画する。 広報誌やBAN-BANテレビ等も活用し、市民への周知と参画意欲を促す。具体的なイベントとしては、自主制作による①お宝鑑定団in加古川、②かつめし大食い競争、③加古川河川敷ムカデ競走タイムトライアル、④加古川産肉と野菜の大即売会、⑤加古川出身著名人によるトークショー等々、参加者と同様、新たなイベント企画も随時募集する。協賛は、他のイベント同様、商工会と企業に依頼。また、加古川はこんな面白い企画をやっていますよと言うPRビデオも加古川出身著名人の中から今をときめく若手のNMB48のメンバーに出演依頼し、そのビデオをネットで配信をする。	①新たな加古川の名物イベントとなり、市外から今まで以上の見物人が期待できる。 ②多くの市民のイベント企画と出演への参画により街全体の活性化を図る。 ③新たなイベント創設による経済効果。 ④市のイメージアップ。	①安全と警備の問題			○	
47	別府町の未来に向かってくらしを守る会	別府町内会、神戸製鋼、関西熱化学、多木商事、しき島商事、加古川市	別府町南部地域、特に旧浜国道より南の地域に於いては、永年に渡る神戸製鋼、関西熱化学による公害の影響から、空き家や空き地といった土地の空洞化が非常に目立ち、若い世代を中心に、子供たちへの健康を考えて先祖代々からの土地に家を構えない方々が増え続けております。この人口減少に歯止めを掛ける為に、又、今現在の山電別府駅における朝夕の通勤客（神戸製鋼、関西熱化学）の多さや、今後の事業拡大に伴って予想されるさらなる通勤客の増加に向けて、下記について提案します。 1. 別府町南部地域の再度の区画整理事業を行うと共に、神戸製鋼、多木商事などの遊休土地の借り上げ、若しくは定期借地権を利用して、ある程度まとまった1戸建て住宅区域や、50戸未満の集合住宅区域を作る。 2. 神戸製鋼所の発電事業においての余剰電力を関電に売電せず、その地域に単独に供給し、開発地域に入居した方々への電気料金の低減を計ると共に、建物内はもちろんの事、その地域をオール電化（LED化）し、住民の初期投資に対して、一率した行政の補助金制度を設ける。	別府町南部地域の人口増加の推進、各企業の遊休土地の活用、及び新規事業（電力サービス）等はもちろんの事、神戸製鋼、関西熱化学の社員が数多く居住する事によって、自社企業の環境活動への監視も計られ、公害抑制にもつながります。又、集合住宅の屋上が、津波時の避難場所にもなります。	別府町南部地域の空き家、空き地、企業の遊休土地マップの作成。 行政が定めている土地の用途種目の変更。 事業母体と資金。			○	
48	ふるさと再発見ツアー	訪問場所と関係の深い市民団体（NPO、ボランティア団体）等が加古川市の委託を受けて実施する	○市民として長く住んでいても勤務先等が大阪、神戸など阪神間にあり、本当の加古川市の良さを知っていない人が多いと思う。また、多くの市民は日頃の行動範囲が狭く、加古川市の魅力を知る機会が少ない。 ○こうした市民を対象に、他地域からも魅力を感じる市内の企業、工場、歴史的建物、神社・寺院等文化財、ニッケ等レトロな場所を市民団体のツアーガイドの先導のもと、毎月50人程度（月２回実施）で訪れ、日頃見ることのできない施設等を見学する。そして、見学後は、感想を述べながら、ふるさとについて再認識する交流の場も提供する。 ○参加者には、一人当たり500円程度を徴収して、市民団体の必要経費として使用する。	○市民一人ひとりが、その場所を訪れることにより、ふるさとを再発見し、魅力を感じることができる。そして、参加者が家族や友人に訪問場所の魅力を伝え、自らも関心を持ち続けて、加古川市を住み続けたい街だと思う人が増える。また、参加者同士の交流の場にもつながる。	○市民が興味を持つ加古川市内の魅力ある企業、工場等が年間を通してツアーを実施するほどの場所数確保ができるかどうか。 ○特に力を注ぎたい訪問企業、工場、歴史的建物を探し、市民の見学の場として提供してくれるかどうか。			○	
49	観光大使「光姫」	加古川市美術協会	①9月４日（櫛橋家の姫：クシ橋⇒９４）を光姫の日に設定する。 ②光姫を「加古川市の観光大使」に任命する。 ③色々なイベント（お祭り）を立ち上げる。 ・光姫コンテスト（年齢など一切制限なし！90歳の光姫応募か！隣の猫が応募か！抽選？・・・観光大使に任命する）。 ・光姫踊り・光姫行列・光姫羽根つき大会・光姫案山子コンテスト ・光姫仮装マラソン＆ツーデイウォーク ④お土産品の開発（靴下など商品化されているものもある） ・光姫人形・光姫こけし・光姫饅頭 ⑤似顔絵コンテスト（加古川市美術協会） ・全国公募：写真がないので、ファジィー議論沸騰！知名度が一気に上昇。 ・賞金30万円で全国から応募が殺到！・・・？ 何れも、伝統行事にまで育てる努力する。	①加古川市の「キャッチフレーズ」にまで、育てる。 光姫の故郷として発信できるのは、「加古川市」が唯一。既に大河ドラマで知名度が高まっており、この機会を逃してはいけないと思います。 ②9月４日の「光姫観光イベント」に、観光客を誘導。	①各イベントの立ち上げは、やはり「人」が重要で、「いとさんは、何時まで経ってもいとさん」と言える人が良いと思います。 熱い思いを持てる方に一任を。 ＊光（テル）とは云わないで！「光姫」と言う。			○	

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
50	二回目の成人式	加古川市	40歳になることを祝う事業を行うことで、将来の地域や各町内会やPTAなどを担っていく年齢であることを意識してもらい、記念事業として地域に貢献できる内容の事業を行っていただく。また、同年度の二十歳の成人式の記念事業の企画等のサポートもしていただき、若者とボランティア活動を協働していく。	将来、地域での中心的年代である意識の高揚が図れ、今後の市政等への参画のきっかけとなる。	個人情報の関係もあるため、行政主導での開催が必要である。			○	
51	かつめし横丁	加古川市（民間委託等）	加古川駅周辺で加古川名物のかつめしをはじめ加古川牛や志方牛の店ばかりの商店街を整備する。 また、若者の起業やアイデア等を中心に運営するような取組みや補助を行う。	観光としての交流人口の拡大と若者の起業のバックアップとなる。	連続的な立地での空き店舗の発掘がむずかしいのと低価格での貸店舗の努力が必要である。			○	
52	海外からの団体旅行者を加古川市へ	加古川市 観光協会 商工会議所	中国等の団体旅行を加古川市に誘致する。 魅力を感じるコースを作成し中国のツアー会社等に的なPRをする コース例 大阪→加古川市→鶴林寺（3重の塔に登る）→昼食（巻きずし・握りずし等を自分で作って食べる）→姫路城→夕食（加古川和牛のかつめし）→買い物（家電量販店・ドラックストア）→市内ビジネスホテル泊→加古川産食材の朝ごはん→神戸等	加古川のPR 加古川市内の店舗の集客アップ	ニーズにあったコースを作れるかが重要 加古川市内だけでは、観光名所が少ないため、姫路城等の近隣市町の観光名所の活用 日本らしい体験を入れることも必要			○	
53	ドリームプランプレゼンテーション加古川(ドリプラ)	主体は行政(職員が協働コーディネーター—及びメンターとしての職能)セッション、プレゼンテーション、ワークショップなどには市民起業家・企業職員・NPO・地域活動団体など立場や環境など垣根なく参加することで、イノベーションを創出できる仲間を集める。	テーマは、地域への新しいひとの流れをつくるアイデア ①市民が「集まる」きっかけと対話の場を創造する ②参加者がみんなで「つながる」仕掛けと人づくりをする ③アイデアを事業化し「つくる」仕組みとプレゼンテーションで伝える 事例として地方創生を先進的に実施している、富山県氷見市で市長と市職員が主体的に、フューチャーセッションで市民と共に未来を考え、ドリプラで夢を語るチームを市民と共に創り進捗させている。 地域に誇りと愛着を持った人々が長期的に目指すべき地域の将来像を 主体的に10分間の動画で描き共有し、加古川市が独自で資金調達(国に頼らない)可能なビジネスモデルの創出を目指す事業としてドリプラを実施する。 具体的に行う事業ごとにチームを結成し、具体的なアクションと共にプレゼンを制作する。 最終的には市民ホール(ドリプラ兵庫でも使用)などで発表会を実施する際に、市民・企業など観戦・参加を頂くことで巻き込んでいきます。	①加古川市にまだ眠っている「ストーリー」「アイデア」と「キーマン」の発掘や育成ができる。 ②様々な立場の人が対話し共創ができる場を創ることができる ③加古川オリジナルのビジネスモデルを事業化し推進できることで新たな人の流れと雇用も期待できる ※総務部人材育成課には人材育成と組織活性化のプログラムとして提案済	まずは、加古川市が目指す目的と目標に合わせてドリプラの内容を説明会や勉強会、フューチャーセッションなどを通じて市民への理解と巻き込みが必要と考えております。 全国ドリプラ界では、ドリプラ兵庫とママドリプラが加古川市実施されたことにより認知度が高いことと、県内含めドリプラに関わっていたり知っていたりと他市に対して差別化となるツールとなり得るが、そのための事前準備など時間がかかることが課題となりえます。			○	
54	まぁる加古川	市民、各種団体	我が街加古川は神戸、姫路の中間に位置し、ベットタウンとしての特色を有しております。また、加古川バイパス、山陽道、国道2号線、明姫幹線の東西へのアクセスは非常に優れております。 郊外型の優位性・交通至便の地域性を活用し、農産物や特産品の販売を推奨できる場所を提供します。定期的なフリーマーケットの開催や、イベントの実施、BANBANテレビ・ラジオとのコラボ企画などを検討します。 農産物の販売に関しては稲美町のファーミンの大規模なものを、特産品の一括販売は拠点的な観光スポットが少ないこともあり、現在は積極的に行われているとは言えません。地酒の試飲・販売、郷土のB級グルメかつめしのPR販売、春先にはいかなごのくぎ煮の販売、調理法の実演・体験などを想定しております。県立農業高校の生産物の常設直売所の設置や、種苗の販売の実施します。 フリーマーケットに関しては現在市内各所で分散した形で開催されているものを、拠点的に定期的に行うことで効率的かつリピーターの獲得に繋がります。ハンドメイド雑貨など主婦層で流行しているものは販売方法が難しく、場所の提供と広報活動を効率的に行います。 東播磨道の活用のため、八幡稲美IC周辺に用地整備を行います。市街地からも神戸・姫路方面からもダイレクトでのアクセス可能な八幡町が最適と考えます。同条件にある他の市町（明石市、高砂市、播磨町、稲美町）にも現在想定しているほどの施設等はなく、地域の共存共栄のためにも是非実現してもらいたいと考えます。	神戸方面、姫路方面からの買い物客が訪れ消費の拡大に繋がります。 また、市民も市街地だけでなく、八幡町に買い物に訪れる機会が増えます。	用地の確保、既存施設との共存			○	

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内容	効果	課題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
55	復活「水郷都市加古川」事業	・基本環境整備（コンクリート側溝を改変し、親水性を付加する等の工事など）行政 ・事業維持・管理（環境維持、観光客へのボランティア案内活動等）市民/NPO	・加古川市は、尼崎～赤穂の南部沿海都市間で、残念ながら最も観光と疎遠な都市となっており、観光が産業の重心の一つになっている現在、非常に憂慮される状況にある。 ・一方で、加古川は、瀬戸内海に流れ込む全河川水系でも五指に入る規模を持ち、加古川市市街地は、古来、その水をうまく引き込むことによって町の基盤ができている。つまるところ、やはり「川のまち加古川は水のまち」なのである。しかし、近年、これらの水路の「側溝化」が目立ち、都市景観を損なう「迷惑施設」化している。 ・上記の水路群にい親水性を付加し、当初から備わっていた水郷としての加古川市街を復活させることによって、倉敷や近江八幡に匹敵する水郷都市として内外の観光客を誘致できる。	・兵庫県南部地域市街地で第二次大戦中、焼夷弾等を用いた大規模空襲からほぼ無傷で免れたのは、加古川市街地をおいて他になく、そのため、「加古川日本毛織社宅建築群」をはじめ、戦前の風情を残した古い町並みが市内随所で見られる。これらは稀有な観光資源である。また、こうした建築物は例外なく水路沿いか水路からほど近くに立地している。水路に親水性を施すことによって、こうした観光スポットの有機的結合、観光ルート化、「～街道」化（例：メルヘン街道:もともとそのような街道はなく、ドイツが観光客用にここ半世紀、特徴のある村を結びつけ概念化しただけなのにも関わらず浸透）すれば観光客への訴求力が飛躍的に向上する。	・特に準用河川に該当する以外の法定河川区域（二級河川、普通河川、一級河川）部分においての事業展開については、兵庫県土整備部土木局総合治水課、各水利管理組織、国土交通省近畿地方整備局河川課等との調整が必要。			○	
56	地方創生アイデアを国際コンテストで募集する事業案	行政	入賞作を必ず実行できなくてもよいので、毎年テーマを決めて、地方創生のアイデアコンテストを国際的に実施し、アイデアを募集し、ユニークな案いくつかに賞金を出せばどうか。	○アイデアによる地方の活性化 ○加古川の国際的な知名度の向上 ○毎年開催することによる認知度公表による出品数の増加等	特になし （賞金の額、著作権の取り扱い、審査員の人選等）			○	
57	県内工学部志望者の受け皿となる私立工学部の誘致事業案	学校法人、行政など	兵庫県は重化学産業の県なのに私立の工学部が1つもなく（広島でも4つある）、工学部進学希望者は県外に下宿を余儀なくされることが多い。なので、特色ある私立の工学部を誘致して県内及び全国から学生を呼んではどうか。	○経済的理由による進路変更などの改善 ○県内外から学生が来ることでの街の活性化 ○県内産業への人材の供給	○通学しやすい土地の確保 ○良い学校法人の選定 ○少子化による学生数の確保（ニーズはあると思う）			○	
58	加古川河口海釣り公園事業案	行政等	加古川には川はあるが、海を埋め立て神戸製鋼が端から端まで建っているので、海を感じられる場所がない。なので、加古川河口の突堤のあたりに海釣り公園をつくってはどうか。	○加古川に海のイメージによる都市の魅力アップ ○家族で行けるレジャー施設の増加 ○市内外からの海釣り客の増加	○施設の建設費用 ○施設の維持管理			○	
59	加古川の自然環境を利用し、太陽光発電設備を配置して発電する事業案	行政等	水面にフロートを浮かせて太陽光発電を行うと、水での温度上昇抑制作用で発電効率が上がるらしい。そこで、平荘湖や権現ダムその他ため池などの加古川の自然環境とコラボして電力を自給してみてはどうか。	○先進的試みによる市の知名度アップと地域のイメージアップ ○電力自給売電効果	○開発元の小野市との折衝など ○自然環境とマッチした太陽光発電設備のデザイン			○	
60	カブト虫の森事業案	行政等	志方の山の中にカブト虫の森のような物を作って養殖などすれば、夏場に子どもが喜ぶのではないか。	○加古川の自然を生かした子どもを連れていけるレジャー施設の増加 ○加古川の自然の豊かさを市外へアピール ○市内外から子ども連れ客の増加	用地の取得、借り上げなど			○	
61	加古川を舞台にした映画を作る事業案	映画会社、行政など	加古川を舞台にした映画を作って、加古川の素朴な良さを発信すればどうか。 （例加古川一帯を舞台にした高校生の恋愛青春物語など）	○加古川の素朴な良さの発信とイメージアップ ○そのことによる知名度アップ、人口増加等	○良い脚本の制作と良い監督の選定 ○興業的に成功するかどうかなど			○	
62	清流加古川に鮎を遡上させるプロジェクト事業案	行政、魚協等	加古川は昔は鮎がたくさん遡上していたという。 清流加古川というのであれば、鮎の遡上を目標として、水質の改善を目指すべきではないか。	○清流加古川復活でのイメージアップによる地域加古川のイメージアップ ○そのことによる人口の増加など	○流域都市との連携 ○より良い魚道の整備など			○	

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
63	魅力ある都市加古川を世界に発信する事業案	主に行政など	東京に住む弟から、加古川は全国的に犯罪事件のイメージがあって、出身を言いづらいと言われた。そこで、加古川を個性ある魅力的な街にしてそのイメージを日本もしくは世界に発信することで、そのような処遇の改善を試み、地域の発展につなげたい。	○都市加古川のイメージアップによる市内市外生活者の処遇改善と人口増加 ○ビジネスチャンスの拡大等	市役所スタッフのやる気、熱意など			○	
64	GKタウン構想（Grand Kakogawa Town）＆GKグルメ	加古川市　寺家町商店街連合組合 加古川市商工会議所 加古川市商店街連合会 など	1、加古川河川敷緑地公園での定期的なイベント開催 将棋大会大道芸漫才落語ダンスグルメフェアなど多数寺家町西端にバスターミナルを作り河川敷までのシャトルバス運行で人の流れを寺家町商店街内に作り出す 2、寺家町商店街の空き店舗を上記団体や基金などで一括借用し客席、厨房などの造作をモジュール化。トイレは商店街の要所に公共のものを作り店舗内には作らずスペース効率を良くする 3、加古川市主催のグルメフェアを開催し人気上位の店に(2)の店舗での一定期間の営業を勧めていく（三宮地下街の麺ロード参考） 4、加古川の新名物・新グルメの発案とコンテストを開催し上位三位を各店舗で新メニューとして出してもらう 5、寺家町商店街を「道の駅」ならぬ「駅の道」として名物・名産・グルメ街道に仕立てていく	1、人の流れができる高齢化向けのイベントや入りやすい店舗も導入し平日でも賑わう通りを目指す（巣鴨のとげ抜き地蔵商店街参考） 2、手打ち麺・その他B級・高級グルメなど若者に製作技術を伝承し、恒久的に働く場所を多く提供することで結婚・子育てしやすい環境を作る 3、結果として経済効果・税収効果が期待できる 4、寺家町商店街から他の地域へ人の流れが波及する可能性も高くそうなればかこバスの収益も上がる	1、寺家町商店街空き店舗借用の交渉と資金拠出の主体をどうするか 2、全体像の設計デザイン・事業採算計画と短中長期展望どこがするか 3、イベント主催・内容・会場や雨天の対処をどうするか 4、官民一体となってやりぬく決意があるか 5、寺家町商店街から鶴林寺・日岡公園など名所巡りなどへの総合観光計画 6、全国へ発信する広報活動・大使の任命・ゆるキャラ作りなど			○	
65	自立創造型相互支援社会創生プロジェクト ～ドリームプランプレゼンテーション加古川(ドリプラ)～	主体は行政(職員が協働コーディネーター及びメンターとしての職能)セッション、プレゼンテーション、ワークショップなどには市民起業家・企業職員・NPO・地域活動団体など立場や環境など垣根なく参加することで、イノベーションを創出できる仲間を集める。	テーマは、地域への新しいひとの流れをつくるアイデア ①市民が「集まる」きっかけと対話の場を創造する ②参加者がみんなで「つながる」仕掛けと人づくりをする ③アイデアを事業化し「つくる」仕組みとプレゼンテーションで伝える 事例として地方創生を先進的に実施している、富山県氷見市で市長と市職員が主体的に、フューチャーセッションで市民と共に未来を考え、ドリプラで夢を語るチームを市民と共に創り進捗させている。 地域に誇りと愛着を持った人々が長期的に目指すべき地域の将来像を 主体的に10分間の動画で描き共有し、加古川市が独自で資金調達(国に頼らない)可能なビジネスモデルの創出を目指す事業としてドリプラを実施する。 具体的に行う事業ごとにチームを結成し、具体的なアクションと共にプレゼンを制作する。 最終的には市民ホール(ドリプラ兵庫でも使用)などで発表会を実施する際に、市民・企業など観戦・参加を頂くことで巻き込んでいきます。	①加古川市にまだ眠っている「ストーリー」「アイデア」と「キーマン」の発掘や育成ができる。 ②様々な立場の人が対話し共創ができる場を創ることができる ③加古川オリジナルのビジネスモデルを事業化し推進できることで新たな人の流れと雇用も期待できる ※総務部人材育成課には人材育成と組織活性化のプログラムとして提案済	まずは、加古川市が目指す目的と目標に合わせてドリプラの内容を説明会や勉強会、フューチャーセッションなどを通じて市民への理解と巻き込みが必要と考えております。 全国ドリプラ界では、ドリプラ兵庫とママドリプラが加古川市実施されたことにより認知度が高いことと、県内含めドリプラに関わっていたり知っていたりと他市に対して差別化となるツールとなり得るが、そのための事前準備など時間がかかることが課題となりえます。			○	

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
66	「汽笛の聞こえる街・かこがわ」プロジェクト	公設民営(上下分離)方式(運営に係る動産・不動産の保有は行政が、運営は市民や地元企業を主体とした団体が担う。)	(概要) 古くから鉄道の要衝として発展した加古川に再び蒸気機関車の汽笛の音を響かせ、観光資源としての定着やJR加古川線の利用促進、地元への経済効果を期待し、「素通りされる街」から「立ち寄ってもらえる街」への脱皮を図る。 (内容) 旧三木鉄道跡地の加古川市部分(主に厄神駅～旧国包駅間)を利用し、特定目的鉄道事業(関係法令：鉄道事業法施行規則第6条の2)としての簡易観光鉄道を敷設する。そこに、現在鶴林寺公園にて静態保存されている旧国鉄のSL、C11型331号を低速自走可能な程度に整備し、圧縮空気動力にて軽量客車またはトロッコ車両を牽引する(鳥取県・若桜鉄道が機関車単体で実施中)。 中古の気動車を譲り受けて、単体で走らせることも可能にしておく。 始発駅は厄神駅の旧三木鉄道ホームを使用し、終着駅は比較的敷地に余裕のある加古川北防災ふれあいセンター付近が適当かと思われる。そこに旧加古川駅舎を再現した駅舎を造り、加古川特産品の販売や市北部の観光案内機能を持たせる(道の駅機能も兼ねる)。 駅舎建築には、地元国包地区の建具職人の匠の技も取り入れ、地場産業の底 上げとPRを図る。 将来的には、SL運転体験もできるようにする(成功事例あり、継続性も期待できる)。	観光路線自体は数百ｍと短くても、PRや話題作りを上手くすれば人々の新たな動線開拓は可能と思われる。鉄道利用者にはJR厄神駅より、車利用者には県道18号からのアクセスも容易で、近くには大勢の買い物客でにぎわうふぁーみんSHOP八幡もあるため、連携すればそれなりの経済効果および加古川の知名度向上に寄与するものと思われる。 また、日岡山～山手地区に点在する古墳群も併せて整備することにより、古墳時代～風土記・万葉集などの古代文芸作品にちなんだ観光資源を発掘し、市民や来訪者の理解につなげることが可能と考えられる。 将来の東播磨道全通後の市北部への流動や回遊性向上も期待できる。	1.線路再敷設の問題 旧三木鉄道のレールが残っていれば、再整備にそれほどの費用と労力はかからなかったであろうが、撤去後の状態で再敷設を要するため費用面の不安が残る。ただ、営業路線跡への観光用簡易軌道敷設のため、用地取得や地盤整備の困難は小さいと思われる。 2.駐車場、周辺道路整備と渋滞対策の問題 道の駅機能も持たせるため、駐車場整備も含めたまとまった敷地が必要である。その点において、用地取得の問題が発生することも考えられる。 川土手の県道からのアクセスはしやすいが、東播磨道からのアクセスについては、現状でも上西条～上荘橋間での慢性的な渋滞もあるため、道路全通以降に開業させるのが望ましい。 3.機関車整備と乗車用車両の調達 鶴林寺公園で展示中の機関車については荒廃が進みつつあるため、早急な劣化防止のための整備が必要である。自走可能な状態にまで持って行くためには、群馬県川場村のホテルSLや若桜鉄道のC12-167機関車移設(多可町から)と整備を先進事例として、ノウハウを学ぶ必要がある。 乗車用車両については、各地で余剰となった引退車両を格安で譲り受ければよいが、車両によっては老朽化と整備のしやすさも問題となる。 4.資金調達と運営団体の選定 整備や運営のための資金については、最近好調なふるさと納税を活用するのが適当かと思われる。全国の人々に株主感覚で出資を募り、特典を用意するなどの方策で継続性を持たせる。 運営団体をどうするかは、実施が決まった時点で募集すればよいが、具体的な方法については別途議論の余地がある。			○	
67	加古川ホタルプロジェクト	加古川市、ホタル育成団体（理系大学等）、近隣の市民	加古川市内にある水路（加古川東高校横、加古川西高校前、加古川ランプほか）でホタルを育成。梅雨時には街中でホタルが見られるようにする。加古川は本流だけでなく水路も美しく、水の都であり、五ヶ井などの歴史があることを再確認する。	観光客を増加。加古川駅から歩いて行けるところを優先的に実施する。	ホタルが育つ環境か調査が必要。近隣住民への説明と協力を要する。 ホタルが難しいなら、クリスマス時のイルミネーションでも可。 とにかく地理的おもしろさと発見をPR。			○	
68	BAN-BAN！ もっともっと！	BAN-BANテレビ、加古川市、近隣店舗、近隣の市。	地元の情報番組、じもぐる、これからどこいこ、ワイドBAN、などを、ほぼ月1回の更新ではなく、週一の更新で放送して欲しい。再放送ばかりは、ちょっとせつない。終わったあとの再放送は、もっとせつない。BAN-BANテレビ、ばんざえもんとともに、地道にがんばっているのに。 特に、加古川マラソンや駅伝は、地元テレビならではの高揚感を、是非とも、ドローン撮影で生の臨場感を出して欲しい。 二市二町をかけめぐる駅伝をやって欲しい。いつもはふつうの道、通勤路の道が、劇戦場に（むろんライブで）！ 国道2号線、東播磨道（今なら走れてしまうのでは）、旧国道、明姫幹線、が スタジアムに！（お正月限定） 日常が異化する瞬間を、もっともっと、バンバン発信して欲しい。	東播磨の再発見。観光客を集める。	近隣住民への協力。			○	
69	かこがわビーコンアプリコンテスト	加古川市 一般公募による実行委員会	公共施設（例：市民会館、ウェルネスパーク）にビーコン（iBeacon）を設置する。 アイデアソン、ハッカソンを実施してビーコン技術の周知とアイデアを募集する。 アプリコンテストを実施して市民生活に役立つITサービスを開発してもらう。 ビーコンの設置数、対象施設を拡大するとともに公開しオープンデータとの連携を図る。	観光・福祉等、市民生活に貢献するITサービスが生まれる可能性がある。 ビーコンをオープンとすることで実証実験に活用したいIT企業の進出が見込める。 個人開発者の増加につながり新しい就労形態を増やすことができる。	ビーコンの保守管理を行う主体が必要になる。 サービス開発をオープンにするにあたりプライバシー規約を徹底する必要がある。			○	

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
70	新たな観光資源の可能性	行政・事業者	新たな観光資源の提案 ①産業景観の観光資源化 産業景観（神戸製鋼の夜景，浜洋館，水道橋，浄水場施設，ニッケ工場、稲岡工業 など）産業施設夜景ツアーや加古川近代産業遺産１０景選定を行い、産業景観（文化財）として新たに認定し市内外へ発信する。 ②サイクリングルートの提案 新たに公共による施設整備（サイクリングコース整備）には財政的負担が生じるので観光拠点間の既存道路を観光サイクリングルート（複数ルート）として指定しサイクリング（ランニング）需要を掘り起こし新たな観光資源とする。 ③加古川魅力ある公園づくり（仮） 加古川は神戸や姫路のベッドタウンとして人口が増加するなかでも、家の近所の田んぼ・水路や野原が比較的多く屋外で自然に触れ合う環境下であったが、市の中心部に人口が集中することにより農地が転用され住宅地として開発されてしまっている。 以前に比べ必然的に屋外で自然に触れ合う環境が減少している状況だからこそ、身近にある公園魅力を発信する必要がある。 〈具体的取組み〉 ・市HPによる近所の公園紹介（マップ化） 昔から居住者には馴染みがあるが、新興住宅地居住者などの転入者は、子育て世代の地域情報が不足がち。また転入者は既存コミュニティにとっつきにくい。まずは公園を通して新規コミュニティ形成のきっかけへ。園内でできる行為等（球技の是非やトイレ有無など利用者目線の表示）も併せて掲載し、公園の利用マナー啓発に寄与する。課題としては開発に伴う提供公園の増加に対応できるか。 ・加古川の魅力ある新たな公園の拠点づくり 周辺道路も整備され以前よりアクセスしやすくなったが、日岡山公園は花見以外、発信力はまだまだ弱い。総合公園として体育館やプール等の充実した施設はあるが年間を通して魅力ある公園利用ができるように公園区域を拡大し再整備を図る。 （総合公園として一定の駐車場は整備済みなので、利用者の滞留を生む施設整備に重点を置く。また国費整備に比較的余裕がある東京オリンピック後の整備を目標に計画を立案する） ・新たな親水空間の創出 別府川（１級河川・兵庫県所管）の治水を目的に整備され、親水性がない断絶された河川となっている。 大雨に伴う洪水などに対する管理・運営上課題や監督行政間の権原の明確化など解決すべき問題は多いが、加古川流域の新たな親水空間として整備することにより環境教育や河川美化の啓発の役割が期待できる。 また環境教育の場であることもふまえると、必然的に公園利用の意識が高くなり、利用ルールを厳格に守ることを前提に開放的にバーベキューを行うことができる公園としても整備する（公園利用ルールを厳格に運用）。					○	
71	「ニッケ社宅」ショートステイ体験	加古川市、加古川観光協会、日本毛織株式会社	○ニッケ社宅の空き部屋に希望するグループもしくは個人が短期間宿泊 できる。 （1泊～最大1週間） 【提案理由】 ○映画のロケ地にもなった社宅の雰囲気や、希少価値のある戦前の街並みを 多くの人に体感してもらう。	地域に誇りや愛着を感じる人を増やし、まちの存在価値を高める。 市外の人には、加古川市に興味を持ってもらうきっかけとする。	・社宅居住者との意見調整 ・耐震化工事が必要か確認すること			○	
72	加古川市の総合情報（ポータル）サイトk−mole(Kakogawa−mole：加古川モール）（仮称）の構築	加古川市、加古川商工会議所、特定非営利活動法人シミンズシーズ、加古川市商店街連合会、寺家町商店街振興組合、兵庫大学　他	加古川市の企業や店、学校や各種施設、何かを発信したい個人なども含めて、加古川市に係るあらゆる分野の情報を包括的に全て含む「よろづ相談所」的な総合案内サイトの構築。 加古川の特産品、名物などを広く全国に販売できるショッピングモールの構築。 パソコンが使えない個人でも買い物かごに出品したりPR出来、加古川にあるもの、良いもの全て集めて、総合力で加古川を一緒に盛り上げるような地域コミュニティーそのものと言えるようなサイト、ショッピングモールの構築。	個々で発信していてもなかなか加古川のイメージアップ、魅力アップにつながらないようなことであっても、それらを一つに集め、相互にリンクさせることによって、いろいろな角度から加古川をPRすることが出来、総合力で加古川の魅力アップをはかり、それを発信でき、地元愛を育てることが出来る。加古川への入り口をあらゆる方法に開くことができる。例えば、観光情報から加古川に関心を持った人が、そのHPを訪れ、加古川の文化や風土、特産品や他の魅力的な情報に接する機会を創出することができる。例えば、「かつめし」というキーワードからこのサイトに訪れた人が、加古川の観光情報を得たり、地元の特産、例えば加古川の地酒「盛典」などの存在を知ったり、日本有数の靴下の産地であることを知ったり、あるいは加古川を離れたひとが加古川の今の情報を知り、かつ安心して消費できる機会を作ることが出来る。ネット販売などをすることのできないような個人商店の商品でも、このモールに参加してシステムを利用すれば、全国に商品を販売するチャンスを作り、いままで埋もれていたけど魅力のある商品や情報によって他には無い加古川独自の文化や魅力を発信することができる。例えば昔からファンの多い翁介の中華そばのセットをネットで販売するということを翁介単独では出来なくても、このモールに商品を登録することによって、PCをさわることが出来ない店にも販路を提供し、コアなニーズにこたえることが出来、加古川独自の魅力を総合力で発信できる。加古川というくくりなら、たとえばKOBELCOの製品や企業情報と翁介の中華そばが同じ加古川の魅力の一部として扱われ、相互にその魅力を伝える。そういうことが、地域に対する理解を深め、愛着を生み、地域愛を育むきっかけになり、加古川の人間が加古川を自慢できるような環境、雰囲気作りに繋がると考える。個々に魅力をもったものを加古川というくくりでつなぐことによって、加古川をより深く、より広く紹介し、魅力を伝えることが出来る。ネットによって、加古川が一つにつながれる。	加古川には素晴らしいものが沢山あるが（自然・文化・歴史などの観光資源、産業、教育あらゆる方面で超一流のものがいっぱい！）、それらがばらばらでまとまりがなく、加古川としてのイメージが薄い。 イベントにしても全国規模のものをいくつも開催しているが、それぞれが独立した事業として行われそれ自体で完結してしまっている。 そのばらばらの優れたパーツをまとめて加古川をひとつにつなぐことはできないか？ （地域が一体となって共働し、一緒になって加古川を盛り上げることはできないか？） そのための組織、団体の垣根を越えた、加古川というくくりで包括的にすべての情報を網羅的に発信し、こたえれる、既存の組織を有機的につなぎ、まとめることがことが出来る組織作り、システム作り。 業種、業態、地位や立場を超えて参加出来る機会の創出。			○	

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
73	見土呂フルーツパークを核とした「加古川ファームビレッジ」と「完全人工光型野菜工場」による地域の活性化と事業創生	国の地方創生事業の対象とするために加古川市も加わり、地域農業事業組合と民間事業者の結集により設立する新事業法人による共同事業体とする。収益事業投資に関しては、新事業法人が中心となる。	現在の見土呂フルーツパークでは、規模と集客メニューが少ないため、活性化どころか維持管理に公的補助がかさむばかりである。収益事業であり未来農業の成功事例として認知されてきた「完全人工光型水耕野菜工場」を、一つの柱として立ち上げる。野菜工場では、生産物の安定した収穫により販売収益が見込め、公的負担が軽減されると予想する。これを見土呂フルーツパーク内に設営することで、パーク来場者のお土産としても販売でき、見学や集客の目玉とすることができる。これをきっかけに、約10haに過ぎないフルーツパークを再構成し、PRを行う。 これらに加えて、加古川河畔までの畜産場や農業集落・農地を含めた100haほどの規模を「加古川ファームビレッジ」として、地域農業者と官民共同型の体験型農業テーマパークとして活性化を図る。これは加古川農業高校との協業として若い者をも巻き込んだ、地方創生事業の大きな役割を果たすことにもなる。 さらに、放置された農業旧家や目立たない存在になっている地元温泉の再興を行い、集客を可能とすることで、学習とアミューズメント地域としての一体型の活性化を目指すものである。 これらを総合的に開発することにより、加古川の新しい魅力を引出し、「絵になる風景の創出」と「一日滞在しても飽きない環境」など新たな楽しいメニューを市民に、そしてさらに近隣都市住民に提供することになり、結果、収益の大幅な改善にもつながるものとする。	・毎日年中生産する野菜工場からの収益による、収益事業体質の確立。 ・毎日販売できる新鮮野菜のお土産で、来場者に満足を与えられること。 ・地域の景観の修復により、歴史ある建物や施設の再利用が可能となり、収益にもなること。 ・人が集まることで、既存のフルーツパーク自体が活性化すること。 ・サイクリングやウォーキング上としての認知も広がり、幅広い人の憩いの場となること。	1、資金の調達（交付金・補助金への期待） 2、地域農業組合や住民協力（相談を始めている） 3、全体をマネージメントする新組織の設立（これからの課題） 4、これら全体を指導する専門家への依頼（すでに指導を受けている）			○	
74	ツール・ド・加古川 家ナリエ加古川 西日本最大の加古川コミケ？		加古川マラソンと双璧をなすスポーツの祭典 集落単位でアイデアをこらした年一回の飾りつけイベント 西日本最大のコミックマーケットの開催及び誘致	健康な街加古川としてのイメージ定着。自然に触れるため子育に関心ある移住者を増やす。 ネットやニュースで話題性を起こし、加古川の地に見物客として足を運ばせ、実際に加古川に住むといった事を意識付け出来る事が可能である。				○	
75	北部地域、自然を武器に！！		北部地域に自然を活用した総合的な、自然公園を作る。	渓流が流れ、あゆ、やあまごつかみができ、ほたるアスレチックや、巨大遊具、コテージやオートキャンプ、昆虫採集ができ、温泉や、加古川の名産販売やレストランというような、総合的なレジャー施設を作ることにより、市外から人を呼びこむことができる。加古川の名産物のPRや消費にもつながると思われる。山陽道パーキングとからませると、その効果はさらにふえると思う。				○	
76	加古川の単独で活動する人間		表には出ず、個人で活動してる人間のための表舞台を作るイベント 個性を生かし、意外な仕事を身近でする事	個人でも出来るので、仕事の選択を増す。意外な仕事を見せるイベントなので、他県からも見に来る可能性がある。存在は知ってるけど生で見たことが無い等。子どもから大人まで楽しめる内容にして地域活性化する。加古川でしかもこのイベントしか体験できないとかみれないとか（まとめて体験）。体験したら意外に自分に合うなどで加古川から有名になる。意外に加古川には個性の強い人間が多いです。				○	
77	サイクリング都市加古川		一級河川加古川、平荘湖、権現ダム、加古川北部の田園地等を結ぶサイクリングコース（ロードバイクコース、マウンテンバイクコース、ママチャリコース等）を企画し、ポイントで観光名所や歴史を案内する。加古川市施設のトイレ、シャワールーム、駐車場を公開する。	健康ブームのマラソンがに人気となっていますが、これから先高齢者を含め更なる健康志向が進むと考え、自転車なら、老若男女問わず身近なので始めやすい。サイクリング都市をPRし、大会や、自転車教室等を開催し新しいひとの流れをつくる。				○	

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　　容	効　　果	課　　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
78	加古川周遊観光バス「ウェルバス（仮）」		加古川市では、市民の健康志向の高まりと明るく健全な社会環境づくりが求められる中、市民のウェルネスライフを積極的に支援していくため、平成12年6月8日に「ウェルネス都市宣言」を行いました。「ウェルネス」とは、単に運動や栄養、休養だけでなく、幅広く生きがい、人間関係、生活環境などの要素をバランスよく保ち、一人ひとりがそれぞれの状況の中で、よりすばらしい生き方や、より充実した生活があることに気づき、それに向けて行動することです。いいかえれば、すべての市民が、良好な環境のもとで、いきいきと毎日を過ごすことです。そこで、加古川市では、市民の誰もがこの町に住み、生きる喜びを感じることができるよう「ひと」「まち」「自然」が調和した「ウェルネス都市加古川」の実現をめざしていきます。 加古川駅前発の観光バスツアー 一日ルートを作り加古川の観光名所やグルメの紹介を行う。 加古川市民は割引、こころんカードを使用可。高齢者は無料など。	観光名所巡りにグルメなどの紹介を加えることにより、加古川市の魅力を満喫してもらうとともに豊かな自然を中心とした良好な環境をPRすることで住みよい街であることを感じてもらう。市民に地元の魅力を感じてもらうことで人口の流出を防ぐことができ、そして高齢者の方などに観光してもらうことで生じるお金の流れをもって過疎化した地域の商店などスポットを当てた地域の活性化も期待できる。				○	
79	加古川市見土呂フルーツパークサクセスプラン	1．見土呂フルーツパークの課題 ・周辺に類似施設が多く、神戸大阪方面の客層がそれらに吸収されるため、広域（特に関西都市圏）からの集客が期待できず、また、アクセスが地道であり、わかりづらく、不親切である。 ・公園面積は10.9haあるが、景観的課題があり、利用メニューも単調であるため、現状では集客増は期待できない。 ・加古川の都市イメージは、神戸製鋼に代表される工業都市であるため、「農の魅力」のアピール度がほとんど無く、フルーツパークの維持管理費用に対する公的出費が嵩んでいる。 2．計画の方向 ・長期的に、見土呂フルーツパーク・観光果樹園および周辺をあわせたエリアを「加古川フルーツパーク」として再構成すると共に、加古川河畔までの、畜産場・農村集落・農地を含めた範囲や後背山地を100ha規模の「加古川ファームビレッジ」として、官民協働型の親自然型・体験型農業テーマパーク化をめざす。 ・公園事業の課題として、公的管理費用の減額→公園景観の荒廃→人気の低下という負のスパイラルの傾向がある。これを、事業性のある公園づくり→公的負担の軽減と人気と集客力のある公園へと変換させ、楽しく、生きがいのあるまちづくりへ導くことが重要となる。 ・本公園は、農業協同組合が指定管理者として運営しており、協働組合は観光果樹園の経営にも携わっている。 高齢化が進む農業協同組合に後継者が充分育つ「経済システム」を付加し、地域の特性を活かした産業多角化により、加古川田園地区の活性化を目に見えるかたちで推進していくことが重要である。 ・このため、第一段階として、果樹栽培に加え、未来農業の成功事例である「完全人工光型水耕栽培」を導入することにより、集客アイテムを増やすと共に、その生産物販売により収益性の高い農業構造を構築し、また、公園の公的負担の軽減にも貢献させる。 3．第一期計画—1．野菜工場の建設・完全人工光型水耕栽培の野菜工場を、見土呂フルーツパーク栗園駐車場敷地に建設する（工場面積1500㎡）・出資は、地元企業・農業協同組合を主とする。 —2．見土呂フルーツパークの改修・見土呂フルーツパークの景観・利用環境の再整備により、「絵になる風景の創出」、「1日滞在しても飽きない環境」、「ファミリーが楽しめる利用メニューづくり」を行う。 □フルーツパークの景観の課題と対策 ・道路向側の墓地が公園景観の魅力を損ね、駐車場景観が土木的である。→墓地景観を緩和・遮蔽する植栽の導入、芝生駐車場化　・アトリウムの壁面・土留め擁壁・受水槽が公園景観の魅力を損ねている。→壁面緑化、遮蔽植栽 ・エントランスの大階段が急俊であり、おもてなしの雰囲気に欠ける。→1:3程度の緩傾斜花階段への改修　・大階段から列柱広場に賑わいの雰囲気が不足している。→舗装の整理、景観木等の導入 ・展望台が老朽化により閉鎖されている。→補修再開　・園路や階段、法面景観が単調で、変化に乏しい。→現状を活かしつつ、ストーリー性のある園路景観を整備 ・果樹園の直販所に新鮮な果実のイメージ、ワクワク感が欠けている。→インフォメーションショップの新設　・北側園地（栗園）が閉鎖されている。→開放　・喫茶店の内装、みやげ物売り場、メニューの魅力に欠けている。 ・喫茶店の出入り口が3箇所に分散し、どれも裏口的で魅力欠ける。→喫茶店全面改修、メニュー更新、みやげ物売場更新　・ウォーキングステーションの展示が更新されていない。→展示更新、ネーミング再考 ・駐車場が分散し、サインが不備である。→サイン整備　・子連れファミリーが楽しめるメニューが不足している。→幼児遊び場環境の整備 4．第2期計画 ・農協や農家有志や加古川農業高校の協働により、飲食・みやげ物メニューや一般市民の生きがいづくりに貢献する体験メニューを開発、オープンファーム事業の推進、ファーマーズカレッジの解説を行う。 ・地域資源を活かし、計画地および周辺（見土呂地区・井野口地区等）の魅力化を推進し、加古川市のもう一つの顔「理想の田園都市の魅力」をアピールする。 ・みとろ荘の再生 ・フルーツパーク・加古川ゴルフクラブ・ファーマーズカレッジ（計画）に加え「温泉」利用が出来ることは、レクリエーションアイテムとして事業可能性がある。 ・温泉事業を行う場合、他施設と差別化し、定常的リピーターを確保するには環境型温泉が主流となっている。 ・みとろ荘は、源泉は加熱の必要な冷泉であり、景観条件も「絶景」とはいえず、競合施設用地問題もあり、景観・環境条件からも慎重に計画する必要がある。 ・庄屋屋敷の活用 ・現在使用されていない庄屋屋敷は、重要な観光資源である。 ・現状位置における活用、フルーツパークもしくはみとろ荘近辺への移築が考えられるが、現段階では、みとろ苑等と合わせ、集落全体を立ち寄り観光地下することが集客性を考え、また地域資源の有効活用を考えると、適切と思われる。						○	
80	かこがわ七つ星	加古川市（観光協会等委託）	五つ星ひょうごへの地元名産品の登録促進と加古川独自のかこがわ七つ星等の名産発掘を行う。	かこがわ名物のPRと商工業の発展並びに企業の成長による税収アップ。	毎年行えるだけの材料（商品等）があるかどうか。			○	○
81	権現湖総合公園をアウトレットモールに		権現湖周辺にアウトレットモールを誘致してはどうでしょう？普通のショッピングモールと違い、「少々遠く手も出かける」方が多く、私の知人でも、垂水・三田はもちろん、りんくう・倉敷まで出かける方が多いようです。 しかし、現状では、神戸以西は倉敷までの間にアウトレットがありませんので、播州地区に設置できれば、集客は見込めるのではないでしょうか？また、山陽道「権現湖PA」にETC専用出口を設置すれば、交通の便もよくなり、一層の集客につながるのではと思います。 また、施設内に、水辺の公園整備や、加古川ならではの名産品を扱うアンテナショップや飲食店などを設置し、地域色を前面に押し出したアウトレットはどうでしょうか？ また、この地域は、インド村構想の影響か、下水道の整備もされており、開発コストの面でも優位性があるかと思います。	・雇用の創出 ・周辺への経済効果 ・税収が見込める	・用地の確保、および、開発・造成 ・駐車場の確保 ・周辺道路の渋滞			○	○
82	加古川の天然鰻を市の名産物にする事業案	行政、魚協等	天然鰻の資源減少が問題とされているが、生息環境を整備して天然鰻を加古川の名産物にし、清流加古川のシンボルにしてはどうか。	○市の名産物の増加 ○鰻資源の増加への貢献とそれを目的に訪れる人の増加 ○加古川の川のイメージアップと市の個性の強化	○生息環境の整備（水質、ワンドなど） ○保護と漁獲量のバランス			○	○

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
83	「かこがわ」「KAKOGAWA」市民クルー拡大事業	市民団体を主体として漕艇センター加古川市ウェルネス担当部局および同水道事業担当、商工労政課との連携	加古川（河川）を「かこがわ」と「KAKOGAWA」の2つの視点から「かこがわ」では河川の浄化を目的とし、地元企業団体に呼びかけ浄化のシステムの構築と実践、それにあわせて未成年を対象とした河川での水質などの観測等の実施により「かこがわ」をみる「KAKOGAWA」ではレガッタの国際大会レベルまでを目標とし世界にむけての発信をおこない選手の育成、競技に関する備品の開発を地元でおこなうことで「KAKOGAWA」を市民の共有した「財産」としていくこと	市民の参画を広げること、レガッタ競技、水質、環境保護、備品開発など多角的に市民個人団体企業に呼びかけ市民ひとりからできる事を促すとくに備品開発は個人からの発信により複数企業による合同の新企業体の発足で加古川（河川）そのものに関する仕事づくりにもなる	事業主体の団体、既存の団体か新規の団体を創設するか事業の初期予算、ひょうご産業活性化センター等相談して予算をくむこと。			○	○
84	寺家町あさいち　叉は　寺家町ひるいち　よるいち　でも可	加古川市、農家（JA等）、近隣店舗、近隣の市民	地元でとれた野菜、玉子、さばいたばかりのトリ、牛肉、とれたばかりの魚など、地元食品を月1回で販売。食品だけではなく、服飾品、品物、手作りの品、屋台、などでも可。特に志方牛はほんとうに美味しい。神戸牛より美味いのでは。もっとPRした方がいい。きむらコロッケ、肉のいろはのローストビーフ丼、大浦ミートのハラミ、北義の牛タン、ほか、ロッキー、エデン、サンキューのかつめし、稲美うどんのからあげ、稲美フジワラ弁当の鮭弁（ごはん）、高砂の焼き鳥、東播磨地域の水（稲美が美味い）、日本酒（岡田酒造）などの食べ比べ、飲み比べができたら、とっても、とてもうれしい。	寺家町を活性化。観光客を集める。	駐車場がない。加古川駅前、ヤマトヤシキ、ニッケパークタウン、JA、れんばい市場等に協力をお願いする。 朝限定なら可能性は高い。			○	○
85	兵庫大学生の加古川市定住化作戦	加古川市	兵庫大学卒業生の加古川市定住化を推進する。 ・兵庫大学生で元々、市外・県外の在住者で、卒業後に加古川市に住まれる方への5年間の家賃補助	兵庫大学卒業生のうち、加古川市内で就職・居住者が増える。また近隣市町に就職した卒業生も、加古川市に居住する方が増える。 5年間加古川に住むことで、加古川市の魅力を直接感じることで、それ以降の定住化が期待できる	兵庫大学卒業生以外の市外・県外から加古川市に転入される方とのバランス				○
86	県立農業高校の就農率アップ	加古川市 県立農業高校	県立農業高校卒業生の加古川市での就農率を推進する。 ・県立農業高校を卒業後に加古川市に住まれる方への5年間の家賃補助 ・就農後5年間の収入補助	県立農業高校卒業生の就農率のアップ。 卒業生の加古川市内での就農者の増加 市内営農者の若返り	就農希望者がスムーズに就農できる環境づくり				○
87	JR加古川駅南周辺の商業活性化のためのエリア指定開業借入資金の利息補助とコーディネート事業。	市＝商工労政	人口27万都市の新快速停車駅周辺にしては少ない人通りを雑多でも賑やかな街に。エリア指定しとくに飲食店が少なくなったということにかんがみて気鋭の新規開業者への借入資金の利息補助。地権者とのコーディネート参画。具体的には寺家町通りの再生、ニッケと寺家町、ベルデモールに囲まれたゾーンを想定。寺家町商店街は遠回りしてでもニッケ、新病院、ベルデモール、カピルやまとやしきとの回遊してもらうべく改良施す。 具体的には老朽アーケードの撤去で明るい山陽街道寺家町ロードへ。シャッター閉め店への賃貸促進で上記開業店増やす。狭いが小型車両の西行一方通行許可へ。（狭いので、ニッケ⇔ヤマト・カピルの一方通行のように不法駐車はありえない）新病院行にも便利に。雑多なにぎわいの生きた街というのも必要です。街には下町のわい雑さも必要です。このままでは寺家町はもっと衰退します。ベルデモールも物品販売的には苦しいですがまだ業者入れ替わって店舗空くことはありません。						○

【テーマ区分】
（ア）結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（イ）くらしの安全・安心を守るとともに、地域と地域を連携する
（ウ）地域への新しいひとの流れをつくる
（エ）安定した雇用を創出する

地方創生に関するアイデア一覧

番号	事業名称	事業主体	内　容	効　果	課　題	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）
88	第5セクター	行政と加古川に本社を置く企業との合同出資で設立される第5セクター。行政が半数以上の株式分を出資し、残りの株式を加古川市に本社を置く企業で、地方創生に関連性のある企業、もしくは、将来的な事業計画の中で、地方創生に関連する事業を実施する予定のある企業で均等に出資する公益的法人の設立。	地方創生をテーマにした、各種問題解決のための事業を複合し、一つの事業として実施し、費用対効果を大きくしていく組織体の運営。 市が半数以上の株式を持つ法人（第5セクター）を設立。行政の都合（担当部署、予算配分）でバラバラになっている施策を第5セクターと呼ばれる法人組織でまとめてコーディネイトする。そこでは、行政側の部署、予算配分という壁を取っ払い、子育て・農業・介護福祉・産業創出など異なる施策の中から、複数併せて一つの事業として実施することで、1＋1を3にも4にも出来る柔軟な組織体を設立。起業意欲のある人に、加古川市が掲げる「地方創生」のテーマに沿ったビジネスアイデアを募集し、採用された事業については第5セクターの一事業として創業し将来的な独立を支援する。	地方創生の特効薬はコレと言ったものが無い。町づくりの施策も、市民団体やNPOに委託するだけで、実際は固定化したメンバーで実施されているだけになっている。各地域に委託用の予算を割り振るため、一地域の予算は非常に低くなり、その中で出来る事業については限界がある。第三者的に見ると、ただ予算をもらってやっているだけのようにしか見えない。 この第5セクターを設立することで、地方創生に関するアイデアが集中してくること。そのアイデアを実現するためのスキームを行政、民間双方が現場で培った力を発揮し構築すること。 事業の黒字化により、得られる利益を市へ還元していく。 低予算で大きな成果を上げるための柔軟で迅速な組織運営が出来ること。 世の中にくずぶった起業希望者の夢を実現に近づけること。 それにより都会へ流出しがちな頭脳の流出を防止出来ること また、近隣自治体からも、この第5セクターでの起業を目指して流入が期待できること。 セクター事業から独立採算が実現する段階で、起業者を独立させ、加古川市の新しい産業の創出を促し、雇用を増やし、そこに働く人の近隣から流入が期待できる。	まったく別の話ではあるが、今、小学校のPTA会長をやっていてわかったことの一つに、人権同和、青少年育成に関する各地域の協議会が設立されており、その協議会ごとに、役員等が設定されていることで、結局地域の受け皿としては町内会連合会となっていて、ある協議会ではAさんが会長でBさんが副会長。また別の協議会に行けば、Bさんが会長でAさんが副会長となっており、それぞれに理事会があり、総会があり各種行事があるが、第5セクターのように、地域の受け皿が一つであるなら、すべてを地域で受け、人権同和部、青少年健全育成部などの部署制にすれば、理事会は一回になり、総会も一回になる。現状は行政側の予算の都合で、わけられているため、受ける市民側としては業務が重複し、会議出席も倍になる。これはPTA会長の成り手を限りなく少なくしている原因の一つと考えられます。つまり子育て問題を発生させる要因の一つになってはいないか？と思ってしまった。行政側の予算の都合（各部署、各部門、施策ごとに割り振られる）で、介護福祉は介護福祉予算、子育て支援は子育て支援予算というような予算投下が通常であるが、これを一旦第5セクターで受け、例えば子育てと介護福祉が同時に解決するような事業を構築し実施していく。その際に、行政の智恵や権限ともちろん予算を活かし、民間企業の智恵やつながりを活かすことで、1＋1を3にも4にも出来ると考えることが出来るのではないか？という事。単品では効果が無くても組み合わせの妙という現象もあります。とんでもなく新しいアイデアはそう簡単に出てくるものではありませんが、既存のアイデア同士を結合させるときに、まったく新しい効果が現れることもあります。事業実施に対する課題としては、税制上の問題等が考えられますが、詳しいことは分かりません。ただ、思ったことを書かせていただいていますので、もし、ご興味あれば精査ください。				○
89	日本農業の持続発展のモデル事業	農協、第3セクター、株式会社など	働き手のいなくなった田畑を借り上げ、県立農業高校卒業生など、農業にやる気のある若者を社員として雇い、効率的な農業を行う。	○農業人口の減少に対する働き手の供給と若者の働き場所の提供 ○農作物による地域の活性化 ○効率的、専門的農業で日本農業の国際競争力の向上	国の規制？				○
90	オール兵庫ブランドによるカバン製造による各地場産業の活性化事業案	各業種等	レッドウイングという靴のメーカーがあるが、そこの靴はびっくりするぐらい革が丈夫だ。その理由は、フレッシュハイドレザーという塩づけにされていない新鮮な皮をなめしているかららしい。 そこで、加古川で育て解体した牛の皮を姫路でなめし、神戸でデザインして豊岡でカバンにし、オール兵庫ブランドとして世界に発信してはどうか。	○各地場産業の連携による活性化 ○兵庫ブランドの世界発信	各都市間業種間の連携				○
91	既存ポテンシャルの活用	行政・事業者	既存ポテンシャルの活用 ①市街化調整区域における耕作放棄地の活用 市街化区域内の農地が宅地に転用されていることが目立ち、加古川における自然や農業に接する機会が激減している。かたや市街化調整区域においては、人口減少や高齢化に伴い、昔ながらの集落の存続が危ぶまれている。 新規耕作希望者と耕作放棄地所有者をマッチングさせ就農体験や市民農園として活用を図り、耕作放棄地の減少に寄与する。最終的に新規就農者として地域に取り込み集落の活性化を促す。 ②既整備のインフラ（水路）の活用 かつて市内では至るところで水田があったが主に市街化区域に人口が集中し、市の中心部でも水田が宅地に転用され、一方、市街化調整区域では人口の流出や高齢化などによって耕作放棄地が増加しつつあり、当時整備された農業用水路は、本来の機能を発揮しているとは言えない。 新たに公共投資を行うのではなく、使われなくなった農業用水路において設置が簡易な小水力発電を活用し、（売電は難しいと思われるので）公園の照明灯や自治会館などの電力補助を目的に整備する。市の財政負担の軽減に寄与できる。 ③特産の魅力を発信 多くの市民（特に若い人）は、加古川オリジナルの靴下が名産であるとの認識はしていない。“靴下＝下着”という固定概念上ファッションの主役にはなれないし、今の行政（市）として靴下が特産物としての発信する力もない（ふるさと納税ぐらい…）。 しかし、需要が少なくとても限られた専門分野でこそ、あえて独自進化することにより加古川市の新たな観光産業として全国規模に発信し最終的には、国外まで視野に入れて展開及び発信を行う。 〈具体的取組み〉 ・加古川市との連携でフルオーダー（色柄サイズ等）できるHPの立ち上げ。当初は採算が合わないかもしれないが、市内外へ靴下生産力や技術力の発信性をアピールする。試行的にふるさと納税還元でフルオーダー（限定数）を実施する。 ・靴下をメインに扱ったイベントの開催。靴下メインのファッションショーや加古川靴下コンペ等の開催（デザイン等の発案は加古川市民限定）。 ・ファッションの分野では靴下が重要視されていないが、加古川オリジナルとして国内外に展開するため品質に重点を置く日本のファッションブランド（アシックスやコムデギャルソン等）との連携を足掛かりにファッションの本場への展開を目指す。特にイタリアは普段外見から見えない靴下にもかなり拘るとされており、靴下のデザインひとつ取っても多種多様。加古川がこれまで培った技術力で新たな市場へ挑戦する。						○